

平成28年度

大分大学

高等教育開発センター報告書

# 目 次

はじめに .....	1
I 高等教育開発センター事業概要 .....	2
II 各部門活動・事業報告	
1. 新規授業・カリキュラム開発部門 .....	4
2. メディア・IT活用部門 .....	6
3. FD・授業評価部門 .....	18
4. 大学開放推進部門・生涯学習支援システム部門 .....	36
III 付録 .....	48
1. センター関係諸規則（投稿規程を含む）	
2. 高等教育開発センター運営委員会・各部門センター員名簿	



## はじめに

大分大学高等教育開発センター長

西野 浩明

いつもセンターの活動にご支援、ご協力いただきありがとうございます。高等教育開発センターの平成 28 年度報告書をお届けします。

平成 28 年度は、新学部である福祉健康科学部と改組された新しい教育学部が始動するという、大分大学の歴史に新たなページを刻む年となりました。また、他の学部でも平成 29 年度の改組に向けた準備や COC+事業の本格化といった、全学的な改革がめざましく進行する 1 年となりました。これらの改革は、本学の教育研究活動のさらなる改善と進展を念頭において進められていることは言うまでもありません。また、高等教育への要請として、アクティブラーニングに基づく能動的学修の推進、明確な到達目標と評価基準に基づいて「教育の質保証」を具現化する枠組みの構築、多様で実践的な課題に基づいて生涯学び続ける姿勢を涵養する教育プログラムの実現など、継続的かつ発展的な教育改善が求められる課題が数多く存在しています。

高等教育開発センターは、メディア・IT 活用、FD・授業評価、大学開放推進、生涯学習支援システムの各部門にそれらの分野を専門とする教員を配置し、上述した多様な教育課題に関する企画・検討・調整・実施支援等の業務を行っています。各部門の活動は、全学部やセンターから選出いただいた委員をはじめ、毎年多くの教職員の方々のご支援、ご協力をいただきながら進めています。最近では、これらの業務に加えて、担当する授業科目や研究活動に関しても、質・量の双方で、さらなる推進と貢献が求められていると認識しています。そのためには、これまでに積み上げてきた成果を振り返りながらも、学内外の関連組織との連携を強化し、新たな課題にも積極的にチャレンジする姿勢が重要であると考えております。

以上のような状況下で、本センターの事業内容について、平成 28 年度に実施した各部門の主要な取り組みを整理する形でまとめました。報告書の刊行にあたり、センターの事業運営に多大なるご支援、ご協力をいただく学内外の関係者の皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。また、本センターのさらなる発展のために、今後とも一層のご支援をお願い申し上げます。最後に、平成 28 年度の報告書の発行が大変遅れましたことをお詫びいたします。

平成 30 年 3 月



# I 高等教育開発センター事業概要

高等教育開発センターは、「学内外の関係機関との連携の下に、高等教育及び生涯学習に関する調査・研究及び教育事業を積極的に推進し、もって大分大学における教育及び地域社会の発展に寄与すること」を目的として設置されている。その目的を達成するための平成 28 年度の成果について、部門ごとに列挙すると以下のようになる。

## 1. 新規授業・カリキュラム開発部門

- ・学内におけるアクティブラーニングの普及・啓発に関する取り組み
- ・eポートフォリオの導入による教育の質保証フレームワークの構築支援に関する取り組み
- ・学内外の関係機関との連携に基づく教育プログラムの構築支援に関する取り組み

## 2. メディア・IT活用部門

- ・授業設計やeラーニング教材開発の支援
- ・eポートフォリオを中核とする学士課程教育の質保証フレームワーク構築の支援
- ・教学IRのための学生および教員を対象とした調査
- ・ICT機器活用授業を含むアクティブラーニング授業の推進および教育支援機器の貸出
- ・単位互換の推進およびeラーニングによる大学等間連携授業の支援

## 3. FD・授業評価部門

- ・全学的なFD研修会の企画・実施
- ・学生による授業評価アンケートの実施
- ・国内外の高等教育の動向に関する情報収集
- ・大分大学COC+推進機構教育プログラム開発委員会への参加

## 4. 大学開放推進部門

- ・公開講座・公開授業の実施
- ・社会人学生に対する学習支援
- ・社会教育関係職員等に対する研修（自治体等との連携による）
- ・大学開放に関する調査・研究の実施

## 5. 生涯学習支援システム部門

- ・自治体や諸団体への支援及び自治体や諸団体との共同・連携事業の実施
- ・地域指導者育成のための社会人や学生の学習の場の提供
- ・教育の協働に関するネットワークの取り組み
- ・地域社会システムに関する調査研究

## 6. 平成 28 年度高等教育開発センター運営委員会

### 第 1 回

日 時：平成 28 年 4 月 26 日（火）12：30～12：40

場 所：旦野原キャンパス 教養教育棟 会議室 2

挾間キャンパス 第 2 会議室【遠隔会議システムを利用】

議 題

1. センター専任教員の人事について

### 第 2 回

日 時：平成 28 年 6 月 7 日（火）10：40～11：20

場 所：旦野原キャンパス 教養教育棟 会議室 1

挾間キャンパス 第 2 会議室【遠隔会議システムを利用】

議 題

1. 平成 27 年度各部門活動報告及び平成 28 年度活動計画について
2. 平成 27 年度決算報告及び平成 28 年度予算案について
3. 教員人事について
4. COC+に関する公開授業における受講料の特例について
5. 平成 28 年度計画・アクションプランへの対応について
6. その他

### 第 3 回

日 時：平成 28 年 12 月 1 日（木）16：30～16：50

場 所：旦野原キャンパス 教養教育棟 会議室 2

挾間キャンパス 病院第 1 会議室【遠隔会議システムを利用】

議 題

1. 教育研究組織と教員組織の分離に伴う内部規則等の改正について
2. 平成 28 年度計画アクションプラン進捗状況について
3. 公開講座の追加について
4. その他

## Ⅱ 各部門活動・事業報告

### 1. 新規授業・カリキュラム開発部門

本部門は、高等教育開発センターの他の4部門と連携し、全学的な教育課題に関する企画・調整業務を担当する部門であり、以下の事業を行った。

#### 【平成28年度の主な取り組み】

- ・学内におけるアクティブラーニングの普及・啓発に関する取り組み
- ・eポートフォリオの導入による教育の質保証フレームワークの構築支援に関する取り組み
- ・学内外の関係機関との連携に基づく教育プログラムの構築支援に関する取り組み

#### 【平成28年度の事業内容】

##### (1)学内におけるアクティブラーニングの普及・啓発に関する取り組み

平成24年に公開された中央教育審議会答申の中でアクティブラーニングが取り上げられて以来、多くの大学で教育のアクティブラーニング化が急速に進展してきている。本学においても、このことは第3期中期目標期間における教育改善活動の課題の1つとして位置づけられている。

高等教育開発センターでは、学内構成員に対するアクティブラーニングの普及・啓発を目的として、FD・授業評価部門を中心にアクティブラーニングに関するFDを計画・実施してきた。先進的な取り組みを行っている大学教員を講師として招聘し、アクティブラーニングの定義、意義、効果等に加えて、実際の講義における実施方法の具体例について学ぶ機会を提供した。また、教員自らがアクティブラーニングを体験することで、自身の授業内容を振り返りながらその効果や導入時の課題について実践的に修得できるようにするために、学生の立場になって参加するロールプレイ形式の研修も複数回実施した。これらの活動の詳細な内容や参加者から得られた意見等については、FD・授業評価部門の報告を参照されたい。

また、アクティブラーニングの定義にはさまざまな意見や論争があるため、広く合意を得られるような定義を行うのは難しい。しかしながら、学内での普及を促すためには、アクティブラーニングを実践するための具体的な手法や学修形態等を整理して示す必要がある。このために、高等教育開発センターの教員が中心となって関連する各種の教授法や他学での実践例等を調査し、本学で実施することを想定した資料を作成し、教育改革ワーキングや全学教育機構推進会議でのレビューを経て、「アクティブラーニングのタイプと形態および手法や例」の初版を完成させた。今後は、適宜内容の見直しを行いながら、本学でのアクティブラーニングの実施状況の把握やその分析等に活用する予定である。詳細は、メディア・IT活用部門の報告を参照されたい。

## (2)e ポートフォリオの導入による教育の質保証フレームワークの構築支援に関する取り組み

教育の質保証においては、「計画(Plan)→実施(Do)→評価(Check)→改善(Act)」のPDCAサイクルによる継続的な教育改善が求められている。その中で、学生自身が記録した学修履歴に基づいて学びのプロセスを省察し、達成度を評価する仕組みを構築することが必要になっている。e ポートフォリオは、このときの学びのプロセスをICT技術で記録しながら、ルーブリック等の評価基準に基づいて達成度を評価する支援を行うものである。本学では、昨年、e ポートフォリオシステムの導入に向けた検討を行うワーキングを、各学部と高等教育開発センターの教員および教育支援課の担当で組織し、仕様の検討とシステムの選定を鋭意進めてきた。その結果、今年度からオープンソース・ソフトウェアを基盤として広範な稼働実績を有するMaharaシステムの運用を開始した。

このシステムは、Maharaが提供する標準機能に加えて、ワーキングで検討した仕様を追加実装しているもので、本学独自のシステムとなっている。今年度は、福祉健康科学部が本システムを用いた学修記録や評価への活用を先行して行っており、来年度以降、その運用実績と経験をもとに他学部へ順次展開する予定である。同システムの運用においては、本学独自の機能について実運用に並行しながら検査を行う形となったため、福祉健康科学部、情報基盤センター、教育支援課と連携しながら顕在化する課題を解決し、システムの安定運用に努める取り組みを継続してきた。また、e ポートフォリオによる達成度評価の実施には、明確な評価基準の作成が重要となるため、DPを評価可能な形に見直す活動を、メディア・IT活用部門を中心に実施した。詳細は、同部門の報告を参照されたい。

## (3)学内外の関係機関との連携に基づく教育プログラムの構築支援に関する取り組み

急速なグローバル化や価値の多様化に柔軟に対応できる人材の育成、自ら課題を発見しながら生涯学び続ける姿勢の涵養、個人の学びを地域社会との連携につなげる教育プログラムの提供など、不断の教育改善が求められる課題が数多く存在する。本学でも、新学部の設置と既存学部の改組、COC+事業の立ち上げと展開等、この数年で大きな改革が進んできた。これらは、教育研究活動のさらなる改革・改善を念頭においたものである。高等教育開発センターでは、「とよのまなびコンソーシアムおおいた」やCOC+事業をとおして、県内の高等教育機関との教育連携に関する活動に主体的にかかわっている。さらに、公開講義・公開授業の計画立案と取りまとめを行い、地域の人々へ現代的課題に基づく多様な学習機会として提供する、また、県内の社会教育行政組織との連携をとおして、地域における生涯学習環境の構築を支援するという役割も担っている。地方創生を支える人材の養成に加えて、一般市民が学び続けることができる生涯学習環境の構築支援の面でも、その基幹組織としての本学ならびにセンターの役割は重要である。本学での関連する取り組みの詳細については、大学開放推進部門および生涯学習支援システム部門の報告を参照されたい。

## 2. メディア・IT活用部門

メディア・IT活用部門ではインストラクショナル・デザインを活用した授業設計・教材の開発、質保証フレームワーク構築の支援、教学 IR のための調査の実施と分析、単位互換の推進および大学等間連携授業の支援を行っている。主な事業は、インストラクショナル・デザインを活用した授業設計やeラーニング教材開発の支援、eポートフォリオを中核とする学士課程教育の質保証フレームワーク構築の支援、教学 IR のための学生および教員を対象とした調査と分析、単位互換の推進およびeラーニングによる大学等間連携授業の支援である。

### 【平成 28 年度の主な取り組み】

- ① 授業設計やeラーニング教材開発の支援
- ② eポートフォリオを中核とする学士課程教育の質保証フレームワーク構築の支援
- ③ 教学 IR のための学生および教員を対象とした調査
- ④ ICT 機器活用授業を含むアクティブラーニング授業の推進および教育支援機器の貸出
- ⑤ 単位互換の推進およびeラーニングによる大学等間連携授業の支援

### 【平成 28 年度の主な事業内容】

#### (1) 授業活用のための映像コンテンツ作成と遠隔配信

上記取り組みの①および⑤に関して、作成したコンテンツの主なものを表 2-1 に示す。「大分の人と学問」および「大分の地域資源」については、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+：Center of Community Plus）」の支援（教務補佐員）も得て、収録・編集した。サーバ蓄積型の配信コンテンツについては著作権について配慮し、収録した授業中で使用されている著作権許諾が得られない部分（楽曲等）については削除したり、代替の情報を加えたりするなどの処理をした。

表 2-1 作成した授業活用のための映像コンテンツ

授業名	担当教員	コンテンツ名
大分の人と学問	望月聡（教育学部）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● オリエンテーション</li> <li>● 人間力概論～地域社会と人間力～</li> <li>● 七島菌プロジェクトと農工連携についての取り組み</li> <li>● 宗麟時代の南蛮音楽 [再編集]</li> </ul>
大分の地域資源	鈴木雄清（高等教育開発センター）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● オリエンテーション</li> <li>● 別府竹細工 [2 本]</li> <li>● 別府八湯温泉道</li> <li>● 国東の七島菌</li> <li>● 大分の食・農業（かぼす）</li> <li>● 臼杵磨崖仏</li> <li>● 大分と麦（麦焼酎）</li> <li>● 大分の農業 2（椎茸）</li> <li>● 大分の地域おこし（昭和の町）</li> </ul>
日本語 5	武原美穂（国際教育研究センター）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中間考査</li> <li>● 期末考査</li> </ul>

映像コンテンツの配信システムとして、昨年度まで本授業で使用していた SGI JNICOL blueSKY の運用を終了した。本年度当初は Wowza Streaming Engine を用いた。一部の環境で閲覧できない受講学生がいたことから、ビデオ配信サービス Vimeo PRO による配信を試行し、高画質の映像を遅延なく配信できることを確かめた後、主な配信方法を Vimeo PRO とすることとした。

Vimeo PRO を用いることの利点としては、物理サーバの管理が不要になることや、大容量の映像コンテンツを配信できること、同時に大人数に配信できることが挙げられる。パスワードで視聴制限が可能であり、SGI JNICOL blueSKY や Wowza Streaming Engine 同様に受講登録した学生に限定した配信ができる。

表 2-2 ビデオ配信システム等の変遷

期 間	配信システム等名	備 考
2011～2015 年度	SGI JNICOL blueSKY	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高等教育開発センター設置</li> <li>● クライアントに Adobe Flash 必要</li> <li>● ソフトウェア・ハードウェア保守期間終了</li> <li>● サーバ OS 保守終了</li> <li>● メーカー取扱終了</li> </ul>
2016 年度	Wowza Streaming Engine	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高等教育開発センター設置</li> <li>● HTML5</li> <li>● ソフトウェア・ハードウェア保守期間終了</li> <li>● ハードウェア保守継続困難</li> </ul>
	Vimeo PRO	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高等教育センター契約</li> <li>● クラウド</li> <li>● 無制限の帯域幅のプレーヤ</li> </ul>

## (2) 教養教育科目「大分の人と学問」実施

取組①および⑤に関連して、教養教育科目「大分の人と学問」において、学習管理システム (LMS) である Moodle 上の e ラーニングコンテンツや配信用動画コンテンツの作成や授業支援を行った。全 15 回は、13 回の Moodle を用いた非同期型の遠隔授業と、2 回の集中形式の対面授業のブレンド型で設計した。授業スケジュールは表 2-3 のとおりである。第 8 回、第 9 回の対面授業は、センター教員が企画および実施を担当した。学術情報拠点且野原図書館 1 階ラーニングコモンズにおいて、大分県に縁のある人物を紹介するポスター作成およびプレゼンテーションを大学間混成のグループで行った。

LMS に関しては、新たに VPS (Virtual Private Server) 上に Moodle 環境を構築した (表 2-4)。連携大学の学生の LMS 利用については、昨年度までのメールによる自己ユーザ登録を廃止し、履修登録者情報に基づいて事前に LMS に学生を登録しておき、アカウント情報が記入された用紙を配布する方式に変更した。また、毎回の小レポートについては、昨年度までの個人で課題を提出する形式から、掲示板へ投稿後相互コメントを必須とする方式に変更し、学生間のコミュニケーションを促した。



表 2-3 「大分の人と学問」の授業スケジュール

回	形式	担当者	授業内容
1	遠隔	鈴木雄清 (大分大学)	オリエンテーション
2	遠隔	島田達生 (大分大学)	今よみがえる田原淳の業績。ノーベル賞を超える大偉業
3	遠隔	溝部仁 (別府溝部学園短期大学)	大分県の中の朝鮮半島
4	遠隔	望月聡 (大分大学)	『関あじ・関さば』を科学する
5	遠隔	吉村充功 (日本文理大学)	人間力概論～地域社会と人間力～
6	遠隔	石川雄一 (大分大学)	おおいた過疎地域を元気にする産学連携— 柚子の抗アレルギー能について
7	遠隔	大上和敏 (大分大学)	大分の水と温泉
8	対面	牧野治敏・鈴木雄清 (大分大学)	11月19日
9			「大分ゆかりの先人たち」ポスター作成およびプレゼンテーション
10	遠隔	小西忠司・松本桂久・菊川裕規・ 尾形公一郎 (大分工業高等専門学校)	七島蘭プロジェクトと農工連携についての 取り組み
11	遠隔	牧野伸義 (大分工業高等専門学校)	江戸の天文学と麻田剛立
12	遠隔	梅本泰史(三和酒類株式会社)・ 横山研治 (立命館アジア太平洋大学)	iichiko の顧客価値創造—過去・現在・未来—
13	遠隔	林圭 (三和酒類株式会社)・ 藤本武士 (立命館アジア太平洋大学)	三和酒類が取り組む企業価値創造活動について
14	遠隔	鳥井裕美子 (大分大学)	江戸時代の大分の医術
15	遠隔	小川伊作 (大分県立芸術文化短期大学)	宗麟時代の南蛮音楽

表 2-4 「大分の人と学問」の学習管理システム

期 間	Moodle	備 考
2011-2015 年度	Moodle 1.9.12+ (Build: 20110602) <a href="https://he-oita.he.oita-u.ac.jp/moodle/">https://he-oita.he.oita-u.ac.jp/moodle/</a>	● 大分大学高等教育開発センター設置 ● ソフトウェア・ハードウェア保守期間終了
2016 年度	Moodle 3.0.3+ (Build: 20160324) <a href="http://mdl.he.oita-u.ac.jp/">http://mdl.he.oita-u.ac.jp/</a>	● 大分大学高等教育開発センター契約 ● VPS クラウド (さくらインターネット)

### (3) 大学 IR コンソーシアムへの入会と学生調査の実施

大学の教育に関する現状を把握し、適切な意思決定するためには、取組③の教学に関する IR が不可欠である。昨年度は、河合塾とオーストラリア教育研究所(ACER: Australian Council for Educational Research)が協力し、オーストラリアの大学生調査 UES (University Experience Survey)や SES (Student Experience Survey)を参考に開発された JUES (Japan University Experience Survey)の学生調査を試行した。本年度は、大学 IR コンソーシアムに入会し、学生調査を実施した。

大学 IR コンソーシアムの加盟大学共通で実施する学生調査は、学生の学習行動や学習時間、能力に関する自己評価、満足度を中心とした調査項目が含まれており、学生が本学での学びをどのように受けとめて、どのように評価しているのかを調べることを目的としている。米国の大学生調査 NSSE (National Survey of Student Engagement)や CIRP (Cooperative Institutional Research Program)をモデルとしており、会員校が共通の調査項目で実施するため、ベンチマーク可能な標準調査として位置づけることができる。将来においては、結果をコンソーシアム会員校全体やベンチマークとする大学と比較することで、本学の特徴を見出すことが可能になる。また、学生調査を継続することで、学生の経年変化や成長を調べることができる。学内にある教学データとリンクさせることで、学習成果に関する直接アセスメントと、学生調査から得られる学習プロセスを組み合わせることで分析することも可能となる。

学生調査は、大学 IR コンソーシアムの共通マークシートを用い、各学部の実施を依頼した。

オリエンテーションや必修等の授業時に配布・回収した。調査時期は学部ごとに異なるが、2017年の9月末から12月中旬までに実施した。対象者は、「一年生調査」が全学部の1年の学生1,126名、「上級生調査」が全学部の3年の学生1,264名であった。加えて、医学部5年および6年の学生を対象に「上級生調査」を実施した。

回答学生者数は、「一年生調査」が1,012名、「上級生調査」が959名であった。回収率は、「一年生調査」が90%、「上級生調査」が76%であった。

#### (4) 学生が省察することやアセスメントの視点からの全学ディプロマポリシー見直し

取組②に関連し、全学ディプロマポリシー（以下、DPと略す）について、現行DPを踏襲しつつ、いくつかの項目を整理し、見直しを行った。見直しの主眼は、学位プログラムのDPとの一体性を担保することに加え、本学の教育の特色を明らかにするものとし、DPを用いたアセスメントを容易にすることである。見直しの結果、全学DPは6項目に整理された（表2-5）。

見直しのポイントの1つは、現行の全学DPでは1項目に複数の内容を含めている場合があるため、到達度の評価が困難であるという点である。例えば、「基本的技能」の項目は、「コミュニケーション能力」、「メディアリテラシー」、「科学的思考力」および「自立的学習能力」といった、少なくとも4つの異なる内容から構成されていた。学生が学修の到達度を自己評価したり、大学として教育成果を評価したりする際、これら4つの項目の到達度がそれぞれ異なる場合に、1つの項目である「基本的技能」の到達度をどのように総合的に評価するのかという問題が生じる。また、「これからの時代に求められる教養」も同様に、「生涯学習力」、「異文化理解」、「論理的思考力」などの下位概念を含んでいる。見直し版においても1つの項目に複数の内容が含まれているものがあるが、項目名に沿ってなるべく類似する内容で構成されるように整理した。その結果、現行DPと比較して、それぞれの項目の到達度の基準（例えば、評価ルーブリックなど）を設定することが容易になっている。

2つ目の見直し点は、現行の全学DPは、項目名から内容が推測しにくいという点である。例えば、「基本的技能」という表現では、具体的にどのような内容であるのかを学生や教員が推測することが困難である。また、「これからの時代に求められる教養」や「社会との関わり」という表現が具体的に何を表わしているかについても同様である。見直し後のDPでは、学士力やValue Rubrics、社会人基礎力で使用されている項目名を参考に、いずれの項目においても項目名だけである程度内容が把握できるように工夫した。

3つ目は、現行の全学DPは、項目ごとに概念の階層のレベルが異なり、概念の重複が複数あることである。例えば、「基本的技能」という項目と「課題解決能力」という項目がある。何を基本的な技能とするかの考え方によっては、「課題解決能力」は「基本的技能」の1つであるという解釈が可能である。つまり、「基本的技能」という階層の下のレベルの項目に「課題解決能力」を含めることができる。また、「これからの時代に求められる教養」が「新しい時代における教養」と同じような意味であると解釈すると、下位概念に「コミュニケーション能力」や「社会とのかか（関）わり」があることになる。今回の見直し案では、前述1つ目および2つ目の見直しポイントに対しての検討を進めることによって、項目間の概念の重複が現行DPに比べて少なくなっている。

学生が自己のDPに対する到達度を確かめながら学修を進め、卒業時にDPを満たしていることを証明するために活用できるツールとして、eポートフォリオがある。来年度は、eポートフォリオを活用したDPのアセスメント方法について検討する予定である。



表 2-5 現行の全学 DP と見直し版 DP の対応

	基本的技能	これからの時代に求められる教養	専門的な知識と技能	課題解決能力	社会との関わり		
現行	<p>1. 自らの思考や意見を明確に表現し、かつ、他者の意見の傾聴を通してコミュニケーションを行い、相互理解を円滑に図ることができる。</p> <p>2. 日本語と外国語を用いて読み、書き、会話することができる。</p> <p>3. 適切な方法やルールに従って情報の収集・分析・評価・発信を行い、社会生活の多様な場面で情報やメディアを主体的に活用できる。</p> <p>4. 科学的思考と方法を用いて、合理的判断を下すことができる。</p> <p>5. 学ぶべき内容を把握し、その学習方法を選択しながら自立的に取り組むことができる。</p>	<p>1. 人類の知的遺産に関心を持ち、多様な文化・価値観を理解し、尊重できる。</p> <p>2. 生涯にわたって主体的に学習する意欲をもっている。</p>	<p>1. 専攻分野における基礎的な概念や知識・技能を修得している。</p> <p>2. 修得した専門分野の知識と技能を、自らのライフデザインに活かすことができる。</p>	<p>1. 課題を発見し、その解決方法を見いだし、総合的な判断を下すことができる。</p> <p>2. 直面する課題に主体的に対応し、その解決のために他者と協調・協働することができる。</p>	<p>1. 社会のルールや規範に則り、良識にもとづいた行動ができる。</p> <p>2. 社会との関わりの中から、自己の責任と使命を認識することができる。</p> <p>3. 社会の持続的発展と人類福祉の向上を志向する意欲をもっている。</p>		
見直し版	<p><b>コミュニケーション能力</b> (Written and Oral Communication Skills)</p> <p>日本語や外国語を用いて、自らの意見を文章および口頭で論理的に表現し、かつ他者の意見の傾聴することによって多様な人々と円滑に相互理解を図ることができる。</p>	<p><b>生涯学習力</b> (Lifelong Learning Skills)</p> <p>学ぶべき内容を自ら把握して目標を設定し、高い学習意欲と探究心を持って主体的に学習することができる。</p>	<p><b>専門的知識・技能の活用</b> (Application of Expert Knowledge and Skills)</p> <p>専門分野に関する基礎的な知識や技能を横断的・総合的に活用することができる。</p>	<p><b>創造的問題解決力</b> (Creative Problem-Solving Skills)</p> <p>個人または他者との協働で、課題を発見し、批判的思考法を用いた創造的解決策の提案、解決への取り組みを行うことができる。</p>	<p><b>地域発展・人類福祉への貢献</b> (Contribution to Regional Development and Human Welfare)</p> <p>インクルーシブな視点※を持ち、多様な文化・価値観を尊重しつつ、社会における自己の責任と使命を認識して、地域の発展と人類福祉の向上のために行動することができる。</p>	<p><b>社会的責務と倫理</b> (Social Responsibility and Ethical Reasoning)</p> <p>社会のルールや規範に則り、自らの良心と良識に従って行動することができる。</p>	

※インクルーシブな視点

性、年齢、国籍、民族、性的指向、所得、障害の有無などにかかわらず、すべての人が社会に積極的に参加・貢献できるように配慮する視点。

## (5) 教育支援機器の貸出・活用支援

上記④に関連して、クリッカー、ノートパソコン、iPad、ビデオカメラ、プロジェクタ等の教育支援機器の貸出を行った。主な機器の貸出状況は、以下の表の通りである。クリッカーは年間で6科目計55の授業等で、ノートパソコンは34回延べ214台、iPadは7回延べ129台、ビデオカメラは12回延べ17台、プロジェクタは12回延べ16台を貸出した。

本年度は、iPadの貸出が増加している。iPadについては、年度途中からiPad 2に替わってiPad Airの貸出を開始した。

クリッカーの貸出を行った科目等と回数

	曜日	時限	科目名等	回数
前期	月	2	生命観の変遷	12
	水	1	自然体験	2
	木	3	経済学Ⅲ	7
	金	2	政治経済学Ⅰ	3
後期	水	1	カラダの見方・考え方	15
	金	4	マルチメディア処理	14
			ビブリオバトル	1
			教員免許状更新講習	1
				55

iPadの貸出状況

月	貸出先 (利用者の部局等)	台数	機種
6月	教育学部	6	iPad 2
7月	教育学部	6	iPad 2
	教育学部	22	iPad 2
	教育学部	30	iPad 2
8月	教育学部	22	iPad 2
11月	教育学部	23	iPad Air
2月	教育学部	20	iPad Air
		129	

ノートパソコンの貸出状況

月	貸出先 (利用者の部局等)	台数
6月	学生支援課	1
7月	学生支援課	1
	施設企画課	2
	教育学部	10
8月	学生支援課	1
	教育学部	5
	COC+推進機構	1
10月	学術情報課 (旦那原)	2
	福祉健康科学部	1
	経済学部	16
	経済学部	1
11月	学術情報課 (旦那原)	2
	経済学部	16
	キャリア支援課	5
	国際交流課	8
	経済学部	8
12月	経済学部	16
	経済学部	8
	経済学部	1
	学生支援課	1
1月	経済学部	16
	教育学部	20
	男女共同参画推進室	10
	キャリア支援課	4
	教育学部	1
	経済学部	7
	経済学部	9
	経済学部	1
	学生支援課	1
2月	経済学部	16
	学生支援課	1
	教育支援課	1
	教育学部	20
3月	キャリア支援課	1
		214

ビデオカメラの貸出状況

月	貸出先 (利用者の部局等)	台数
6月	国際教育研究センター	2
	福祉科学研究センター	1
	国際教育研究センター	1
7月	高等教育開発センター	1
	国際教育研究センター	2
8月	国際教育研究センター	2
10月	福祉健康科学部	1
11月	国際交流課	1
	国際教育研究センター	2
12月	福祉健康科学部	1
1月	国際教育研究センター	2
3月	情報基盤センター	1
		17

プロジェクタの貸出状況

月	貸出先 (利用者の部局等)	台数
9月	福祉科学研究センター	1
10月	福祉健康科学部	1
10月	高等教育開発センター	1
11月	キャリア支援課	1
11月	福祉科学研究センター	1
11月	教育学部	3
12月	経済学部	1
1月	キャリア支援課	3
1月	経済学部	1
2月	経済学部	1
2月	教育支援課	1
3月	高等教育開発センター	1
		16

## (6) アクティブラーニングの分類と実態調査

取組④に関連して、授業での ICT 機器活用を含むアクティブラーニングを推進するために、アクティブラーニングに関する情報を整理し、学内に広く提供した。アクティブラーニング型の授業方法等を整理するにあたっては文献調査を実施し、主に長崎大学のアクティブラーニング分類を参考にすることにした。10月14日に長崎大学大学教育イノベーションセンター助教川越明日香氏に聞き取り調査を依頼し、長崎大学の取組についての情報収集を行った。

高等教育開発センターでは、アクティブラーニングの支援にもとづいた授業を以下のように表現することとした。高大接続についても視野に入れた表現を採用している。

読解、作文、発表、討論、問題解決、創造などの学生の活動への関与があり、それらで生じる認知プロセスの外化を伴っている授業

- 学生が自ら計画して学修に取り組み、省察して次の学びにつなげていく過程を実現する「主体的な学び」
- 他者との協働や外界との相互作用を通じて考えを発展させる「対話的な学び」
- 学んだ知識を活かして問題発見・解決や創造を行う「深い学び」

また、アクティブラーニングの視点にもとづいた授業で行われる学修を、主に以下の4タイプの組み合わせとした。これは、長崎大学での取組を参考に一部を改変したものである。

### (A) 知識の定着・確認

知識の定着およびそれらを確認する、主に個の学修

### (B) 意見の表現・交換

知識や意見等を表現し、発表したり交換したりする他者との協働や相互作用のある学修

### (C) 応用志向

知識やスキルを現実で起こりそうな状況に応用したり、問題発見・解決したりする、主に教室等内での学修

### (D) 知識の活用・創造

知識やスキルを現場等で活用し省察する学修や、創造的な学修

4タイプごとに、アクティブラーニングの形態や手法等の整理を行った。その結果を表2-6に示す。また、アクティブラーニングの形態や手法については、簡単な用語集を別途作成した。これらの情報に加えて、本センターで推進するアクティブラーニングについて説明したビデオコンテンツを作成し、センターホームページで公開した。

整理したアクティブラーニングの4タイプや、形態、手法等の分類について、本学の状況を把握するとともに改善する目的で、2017年3月に科目の担当教員（教務システムに登録されている主担当教員）に電子メールで調査を依頼し、ウェブ上のアンケートフォームで質問項目への回答を求めた。調査対象科目は、平成28年度の開講（予定）の2,288科目であった。調査結果については、2018年度中に分析して報告する予定である。

取組⑤に関連して、2017年3月9日から3月10日に日本文理大学湯布院研修所で実施された大分県のCOC+事業に係る共同開発科目企画研修会の研修2（14:00-14:40）において、「大分大学で検討しているアクティブラーニングについて」と題するテーマで、センターの推進するアクティブラーニングの取組について紹介するとともに、COC+事業として大学等間が連携して開講する予定である共同開発科目の授業計画を分析してもらうワークショップを実施した。

表 2-6 アクティブラーニングのタイプと形態および手法や例

タイプ	タイプの説明	アクティブラーニングの形態	手法や例	備考
(A) 知識の定着・確認	知識の定着およびそれらを確認する、主に個の学修	レスポンスアナライザー	クリッカー	
		小テスト、演習、実技		
		知識の定着・確認を図るレポート・ライティング		表現志向のものは (B)
		時間外学修	予習 (反転学修を含む)、復習、宿題	
		振り返り (省察)	振り返りシート、大福帳、コメントシート	
		体験、実験、観察	手順通りの実験・実習、体験活動、見学、実体験を伴わない学生の過去の体験との紐付け	
		調査	調べ学修 (文献、インターネット)	
(B) 意見の表現・交換	知識や意見等を表現し、発表したり交換したりする他者との協働や相互作用のある学修	発表	プレゼンテーション、パネルディスカッション	
		話し合い	ディスカッション、ブレインストーミング、ラウンドロビン、バズグループ、シンクペアシェア、ワールドカフェ、ディベート、マイクロディベート	
		教え合い	ジグソー、知識構成型ジグソー法、LTD (Learning Through Discussion)、相互教授 (ピアインストラクション)	問題解決が含まれる場合は (C) も参照
		図解	コンセプトマップ、KJ 法 A 型図解化、マインドマップ	
		文章作成	表現志向のレポート・ライティング、共同的執筆、ピアレスポンス	知識の定着・確認を図るものは (A)
		相互評価 (ピアレビュー)		
(C) 応用志向	知識やスキルを現実で起こりそうな状況に応用したり、問題発見・解決したりする、主に教室等内での学修	問題基盤学修 (Problem-Based)	チュートリアル	
		シミュレーションゲーム		シナリオベース
		ロールプレイ、演劇		
		仮説の検証や探索を伴う実験		
		ケースメソッド	シナリオ・事例研究、事例設定型教授 (Case-Based)	学修者主体のもの
		チーム基盤型学修 (Team-Based)		
(D) 知識の活用・創造	知識やスキルを現場等で活用し省察する学修や、創造的な学修	プロジェクト学修 (Project-Based)		
		教育実習		
		臨地実習		
		インターンシップ		省察を伴う
		サービスマーケティング		省察を伴う
		フィールドワーク	聞き取り調査、アンケート調査	受動的な見学や体験活動は (A)
		観測		
		創成学修	ものづくり実習	
		芸術創作		
		設計、デザイン、意匠		
研究、論文作成	卒業論文、修士論文			

注) 1つの教育活動に対して、上記の複数の分類や方法が組み合わされて用いられることがある。また、1つの形式にその他の形式が含まれる場合がある。

## (7) 単位互換ガイドブックの作成

取組⑤に関連して、県内大学等の学生向けに「大分県内大学等の単位互換ガイドブック」(A5サイズ 10 ページ)を作成して、今年度の3月に県内大学への配布を行った。県内大学等における単位互換科目の受講者数の伸び悩みの理由の1つには、単位互換についての情報が十分に周知されていないことが考えられる。

学外の学生が受講しやすいように配慮されている授業について、ピックアップして紹介している。具体的には、授業配信システムや学習管理システムを用いたインターネットによる受講や授業会場までの無料の送迎バスの用意、ホルトホール大分での受講が可能な科目、宿泊を伴う集中形式の科目について、詳細な情報を提供するように設計した。





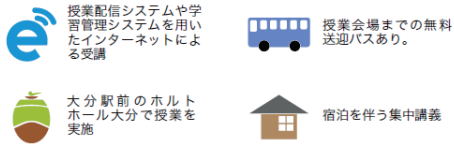
## 単位互換について

- それぞれの大学等から提供される科目を受講し修得した単位を、在籍する大学で認定してもらえます。
- 他の大学等の学生と学んだり、他の大学等のキャンパスで学んだりすることのできる科目もあります。
- 受講希望者が多数となった科目では、受講者調整を実施することがあります。
- 原則として、在籍する大学等に支払っている授業料以外の負担は必要ありません。
- 履修手続きや科目に関するお問い合わせは、所属大学等の担当窓口へご連絡ください。

## ガイドブックについて

- 2～8ページでは、以下の「マークの説明」に挙げているような他大学等の学生が受講しやすく工夫している科目を取り上げて紹介しています。
- 本ガイドブックは2016年度の授業の内容を参考に作成したものであり、一部変更になっている場合があります。最新の情報をシラバス等でご確認ください。
- 大学等によっては、このガイドブックに掲載されている科目以外にも、他の大学等との単位互換が存在しています。このガイドブックに掲載されている科目以外の大分県内外の大学等や国外の大学等々の単位互換科目については、所属大学等の担当窓口へお尋ねください。

### マークの説明



大分大学高等教育開発センター

1

## とよまなびコンソーシアムおおい

## 大分の人と学問

後期 全15回2単位

担当教員：副学長 望月 聡、他

大分県内の大学・短期大学・高等専門学校の教員達が、大分の地に根差したバラエティ豊かな学問分野を紹介することで、大分に関する教養を深めていくことを目的としています。



1. オリエンテーション  
大分大学 鈴木雄清
2. 今よみがえる田原淳の業績  
～ノーベル賞を超える大偉業～  
放送大学(大分大学) 島田達生
3. 大分県の中の朝鮮半島  
別府蒲部学園短期大学 溝部 仁
4. 『関あじ・関さば』を科学する  
大分大学 望月 聡
5. 人間力概論～地域社会と人間力～  
日本文科大学 吉村充功
6. おおいた過疎地域を元気にする産学連携  
～柚子の抗アレルギー能について～  
大分大学 石川 雄一
7. 大分の水と温泉  
大分大学 芝原 雅彦
8. グループワーク
9. 大分大学 牧野治敏・鈴木雄清
10. 七島蘭プロジェクトと  
農工連携についての取り組み  
大分工業高等専門学校 小西忠司・松本桂久  
菊川裕規・尾形公一郎
11. 江戸の天文学と麻田剛立  
大分工業高等専門学校 牧野 伸義
12. iichikoの顧客価値創造  
～過去・現在・未来～  
三和酒類株式会社 柳本泰史  
立命館アジア太平洋大学 横山研治
13. 三和酒類が取り組む  
企業価値創造活動について  
三和酒類株式会社 林圭  
立命館アジア太平洋大学 藤本武士
14. 江戸時代の大分の医術  
大分大学 鳥井 裕美子
15. 宗麟時代の南蛮音楽  
大分県立芸術文化短期大学 小川伊作



◆成績評価 ミニレポート(70%)、課題レポート(30%)の採換。

2

## ジェネリックスキル養成1

前期 全8回1単位

担当教員：人財開発センター長 吉村充功・特任准教授 市田秀樹

～8大学等合同合宿研修～  
野外活動をベースとした体系的な活動を通じて、自己の理解と挑戦、他者への理解や役割、チームとして課題に立ち向かうことの重要性を学び、コンピテンシー能力を高めています。



- 第1回 オリエンテーション、チーム編成
- 第2回 アイスブレイク(室内研修)
- 第3回 ローエレメント研修(1)
- 第4回 ローエレメント研修(2)
- 第5回 初日のふり返り(ピーニング)
- 第6回 ハイエレメント研修(1)
- 第7回 ハイエレメント研修(2)
- 第8回 リフレクション(ふり返り)・全体総括



【ワークショップの様子】



【野外活動の様子】

集中授業  
9月12日(火)～13日(水)予定  
(1泊2日)  
住吉浜リゾートパーク(杵築市)  
<http://www.sumiyoshihama.com/>

- ・1年生のみ(高専は4年生)受講可能です(定員45名)。
- ・研修宿泊費は無料です。食費(4食)のみ実費 負担です(1,500円程度)。
- ・日本文科大学から大分駅、別府駅を経由する無料バスを運行予定です(往復)。

### ◆成績評価

①関心・意欲・態度 ②知識・理解 ③技能・表現・コミュニケーション ④思考・判断・創造  
上記の観点、成果物(ふり返り資料)とレポート、チーム活動での貢献度等から評価します。

3

## ジェネリックスキル養成2

後期 全8回1単位

担当教員：人財開発センター長 吉村充功・経済経営学道徳教育  
工学部建築学科教授 林圭

～8大学等合同合宿研修～  
地域問題に対しチームで課題発見、解決策を考えるワークショップです！  
他大学等の学生と一緒に知識を活用して問題解決する力を養成するとともに、大分について考えるきっかけにします。



- 第1回 オリエンテーション、チーム編成
- 第2回 資料の読解、共有(情報分析)
- 第3回 ディスカッション(1)(課題発見)
- 第4回 ディスカッション(2)(解決策の構想)
- 第5回 プレゼンテーション準備
- 第6回 プレゼンテーション(1)
- 第7回 プレゼンテーション(2)
- 第8回 リフレクション(振り返り)・全体総括



【ワークショップの様子】



【研修所と由布岳】

集中授業  
2月下旬の平日(未定)  
(1泊2日)  
日本文科大学 湯布院研修所  
<http://rbu.co.jp/yufuin/>

- ・1年生のみ(高専は4年生)受講可能です(定員45名)。
- ・研修宿泊費は無料です。食費(4食)のみ実費 負担です(1,500円程度)。
- ・日本文科大学から大分駅、別府駅を経由する無料バスを運行予定です(往復)。

### ◆成績評価

①関心・意欲・態度 ②知識・理解 ③技能・表現・コミュニケーション ④思考・判断・創造  
上記の観点、成果物(パワーポイント資料)とプレゼンテーション、ワークショップでの貢献度等から評価します。

4

～人間性育成の集大成～  
人間として、または医療従事者として備えておくべき豊かな知性と感性を養う。



- 第1回 医療と報道  
朝日新聞社岡山総局記者 中村通子
- 第2回 大学生のためのライフデザイン  
九州大学大学院助教 佐藤剛史
- 第3回 生活習慣と健康～アルコール感受性遺伝子との関係～  
和歌山県立医科大学医学部教授 竹下達也
- 第4回 子どもの貧困対策  
大分県こども・家庭支援課課長 伊東雅人
- 第5回 山間地での高齢者との暮らしぶりを世界へ発信する  
国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会会長 林浩昭
- 第6回 医療と仏教の協力  
佐藤第二病院院長・龍谷大学教授(仏教) 田畑正久
- 第7回 災害は忘れる暇なくやってくる～熊本・大分地震と大雨～  
気象予報士・防災アドバイザー・環境教育アドバイザー 花百廣務
- 第8回 高齢者の緩和ケア  
高齢者介護ケアの専門家、多文化看護学者  
エンドオブライフケア看護教育協議会の老年看護指導者  
CapstoneHealthcareGroup, Palliative Care Essentials の  
2つの医療法人の創立者、兼 CEO  
米国アリゾナ州立大学看護医療大学非常勤教員 Carol O.Long



◆授業概要 様々な分野の第一線で活躍し、かつ造詣の深い方々を講師としてお招きします。  
◆成績評価 レポートにて評価します。

5

病気・外傷等に罹患した訪日観光客に対し、速やかな応急処置と重症度の判断が可能となる医学的な知識を学びます。それを踏まえ、病院、ホテルなどで使用する英語、中国語の基本文型を学び、想定される場面への対応及び適切な発音の修得を目的とします。



集中授業  
7月8日(土)、9日(日)予定

- バイタルサインがとれるようになる。  
新生児と子どもの主な疾病の知識を得る。
- 女性特有の婦人科疾患と産科疾患の知識を得るとともに  
性感染症と緊急避妊法の知識を得る。
- 成人期・高齢期の疾患に関する知識を得る。
- AED (Automated External Defibrillator) による  
応急処置法を 会得するとともに心臓マッサージの手技を会得する。
- 体調を崩した訪日観光客に呼びかけ、  
応答する基本文型の英語を知り、発音練習を行う。
- 日本人が国外で体調を崩した時に、ホテル、公共交通機関、病院などで  
使用する基本文型の英語を知り、発音練習を行う。
- 中国語の発音規則と発声のやり方を知り、その発音練習を行う。
- 体調を崩した訪日観光客に呼びかけ、  
応答する基本文型の中国語を知り、発音練習を行う。



【授業風景①】



【授業風景②】

◆成績評価  
健康：筆記試験 (25%)、出席時のレポート (75%)  
語学：講義中に作成する課題など (100%)

6

豊富な地域資源を通して大分の特長や魅力を学び、大分のことをもっと調べたり、魅力を感じたりしようとするようになってもらうことを目的としています。



- オリエンテーション  
大分大学 鈴木雄清
- 別府竹細工  
油布竹藪舎 籠師 油布 昌伯 (昌孝) 氏  
油布 田氏
- 別府八湯温泉道  
別府市観光協会 堤 栄一郎 氏
- 国東の七島園  
くにさき七島園復興会事務局長 細田 利彦 氏  
くにさき七島園復興会 諸富 康弘 氏  
七島園工房なつむぎ 岩切 千佳 氏
- 大分の農業 (カボス栽培)  
カボス農家 工藤 高稱 氏・工藤 鶴子 氏
- 大分の農業 2 (しいたけ栽培)  
国東森林組合理事 清原 米蔵 氏
- 大分の磨崖仏  
臼杵市歴史資料館館長 菊田 徹 氏
- 大分と麦焼酎  
藤原醸造合資会社 藤原 淳一郎 氏
- 昭和の町  
豊後高田市商工観光課観光振興推進室室長 水田 健二 氏  
豊後高田市観光まちづくり株式会社 日浦 勝彦 氏
- 昭和の町 2  
豊後高田市商工観光課観光振興推進室室長 水田 健二 氏
- 総まとめ
- アイズブレイク
- グループ活動
- 9:30～16:50

集中授業 (12～15回)  
土曜日もしくは日曜日 (未定)  
ホルトホール大分  
サテライトキャンパス  
おおい講義室



◆成績評価 小テスト・タスク (50%)、課題 (50%) の累積。

7

大分は地域ブランドなど、以前からの財産に力をいれています。私達の身の回りにも知的財産は沢山関係しており、これからの時代には基本的な知識と考え方を知ることが重要になってきています。実際の例を題材に、楽しく知的財産を学んでみませんか。



- 1日目
  - 10:20～11:50 「知的財産と知的財産権」
  - 12:50～14:20 「著作権」
- 2日目
  - 10:20～11:50 「特許入門 (1)」
  - 12:50～14:20 「特許入門 (2)」
  - 14:30～16:00 「発明とは？」
- 3日目
  - 10:20～11:50 「商標とブランド」
  - 12:50～14:20 「意匠とデザイン」
  - 14:30～16:00 「知的財産に関する疑問・質問とまとめ」

集中授業  
土曜日 (未定)  
ホルトホール大分  
サテライトキャンパス  
おおい講義室



【授業風景①】



【授業風景②】

知的財産は決して難しい“学問”ではありません。身近なことから知的財産をみつけながらのしく理解をしてゆきます。受身の講義ではなく、受講者でディスカッションをしたり、質問をしたりしながら講義をすすめていきますので、積極的に参加して下さい。

◆成績評価 授業ごとの小レポート 50%、最終レポート 50%

8

平成29年度 各大学が提供する単位互換科目一覧

【前期】

大学名	科目名	曜日	担当教員	単位数	他大学 講義単位数	対象 学年	備考	創	と	
大分県立芸術文化短期大学	音楽・聴覚心理学	金3	吉山	2	5	2		●	●	
	観光地域づくり論	月3	菅野	2	5	2		●	●	
	大分の観光と文化	火2	藤谷	2	10	1-2	オムニバス形式	●	●	
大分工業高等専門学校	基礎工学	金2	橋田	2	4	3-4		●	●	
	工学特論Ⅰ	水2	堀	3				●	●	
大分県立看護科学大学	総合人間学	オムニバス		1	20	1~4	講義(第148コマ) 巡回レポート提出	●	●	
	企業の情報戦略と消費者の行動	水1	宇野	2	10	1名程度	1~4	●	●	
大分大学	日本のマネジメント	水2	宮下	2	10	1名程度	1~4	●	●	
	革新的企業経営	水2	松岡	2	10	1名程度	1~4	●	●	
	中小企業の能力の発掘と発信	金中	前田	2	10	1名程度	1-2	●	●	
	産業振興計画	火1	大橋・他	2	10	1名程度	1~4	●	●	
	産業経営工学	火1	梅田・他	2	10	1名程度	1~4	●	●	
	大分県特定振興論	水2	田中	2	10	1名程度	1~4	●	●	
	子どもらとしての福祉とは：社会的養護と家族支援	水3	船橋	2	10	1名程度	1~4	●	●	
	大分の地域資源	水3	鈴木	2	10	1名程度	1~4	●	●	
	世界・日本・大分の農業経済論	水2	山浦	2	10	1名程度	1~4	●	●	
	食と農の地理学	金2	大沢	2	10	1名程度	1~4	●	●	
	コンピュータ科学入門	水1	中島・他	2	10	1名程度	1~4	●	●	
	スポーツと生活	水1	前田・他	2	10	1名程度	1~4	●	●	
	有機化学	水2	石川・他	2	10	1名程度	1~4	●	●	
	福祉テクノロジー入門	水2	坂内	2	10	1名程度	1~4	●	●	
	国際健康コンシェルジュ養成講座	金中	穴井・他	1	10	1名程度	1~4	大分大学で開講 社会人受け入れ	●	●
	日本文理大学	ジェネリックススキル養成Ⅰ	金中	吉村 市田	1	20	1	講習・実習2日間(8コマ) 研修プログラムパーク(作楽市)で1泊2日の合宿 夏期休業中(毎月12日(火)~13日(水))に実施。専任社会人可	●	●
		アジア太平洋の宗教 JA	月5及 水6	前川	5				●	●
	立命館アジア太平洋大学	アジア太平洋の文化と社会 JB	火2及 金2	金	5				●	●
		観光学入門	月2	安達 他	1	20	1-2	講義(第148コマ) 社会人受け入れ	●	●
	別府清部学園短期大学	温泉コンシェルジュの基礎	月5 金中	中川 他	2	20	1-2	講義(第142コマ) フィールドワーク3コマ グループワーク有り 社会人受け入れ	●	●
別府の歴史と発展		水4	安達	2	20	1~4	社会人受け入れ	●	●	
温泉コンシェルジュ演習		金中 一部 後期	安達 他	2	10	1~4	講義、フィールドワーク 観光施設における現場演習 社会人受け入れ 講義7コマ有り(1.0月)	●	●	
温泉学		金中	由佐 他	2	20	1~4	フィールドワーク2コマ (8月5学期) 社会人受け入れ	●	●	
まちづくりと観光		金中	経野	2	10	1~4	講義11コマ フィールドワーク4コマ (8月下旬予定) 社会人受け入れ	●	●	
おもてなしの心を学ぶ		火2	木本 他	2	20	1-2	社会人受け入れ グループワーク有り	●	●	
								●	●	

【後期】

大学名	科目名	曜日	担当教員	単位数	他大学 講義単位数	対象 学年	備考	創	と	
大分県立芸術文化短期大学	創作表現	未定	野谷	5				●	●	
	社会福祉概論	未定	久保山	2	4	3-4		●	●	
大分工業高等専門学校	工学特論Ⅱ	未定	堀	3				●	●	
	建設の基礎	金2	小野	2	10	1名程度	1~4	●	●	
大分大学	知的財産入門	金中	高橋	1	10	1名程度	1~4	●	●	
	経営入門	1	梅田・他	2	10	1名程度	1~4	●	●	
	地域における位置と社会	水2	石井	2	10	1名程度	1~4	●	●	
	交通からみた地域社会	水2	大井	2	10	1名程度	1~4	●	●	
	地域社会へのまなざし	水2	高橋	2	10	1名程度	1~4	●	●	
	産業施設と治療・予防	水3	片岡・他	2	10	1名程度	1~4	●	●	
	大分の人と学問	金中	望月・他	2	10	1名程度	1~4	●	●	
	大分の地域資源	金中	鈴木	2	10	1名程度	1~4	●	●	
	西洋思想の選読	火1	黒川	2	10	1名程度	1~4	●	●	
	分子生物学	火1	藤井	2	10	1名程度	1~4	●	●	
	情報科学の発展	水1	伊藤・他	2	10	1名程度	1~4	●	●	
	くらしの化学	水2	近藤・他	2	10	1名程度	1~4	●	●	
	学習意欲の心理学	水2	鈴木	2	10	1名程度	1~4	●	●	
	人間の知的遺産と向き合う	水3	牧野	2	10	1名程度	1~4	●	●	
	カタリバネキャリアを拓く	金2	野田	2	10	1名程度	1~4	●	●	
	日本文理大学	ジェネリックススキル養成Ⅱ	金中	鈴木(新) ・吉村	1	30	1	講習2日間(8コマ) 暑期休業中 日本文理大学湯布院研修所(由布市)で1泊2日の合宿 2月下旬後半日実施) 専任社会人可	●	●
		コミュニケーション演習	水3	山本 他	5				●	●
別府大学	記簿学	火3	工藤 他	5				●	●	
	九州学	土1	藤沼	2	30	1	一週公開	●	●	
別府清部学園短期大学	温泉学概論	土2	鈴木	2	10	1	フィールドワーク有り	●	●	
	温泉実務演習	未定(予定)	前田	2	20	1~4	社会人受け入れ	●	●	
	温泉健康トレーニング	金曜(予定)	佐田 他	2	10	1~4	講義11コマ フィールドワーク4コマ予定 社会人受け入れ	●	●	
	大分学	未定	橋本 他	2	20	1~4	社会人受け入れ	●	●	
別府清部学園短期大学	温泉文化と活用	未定	安達 他	2	20	1~4	講義11コマ フィールドワーク4コマ予定 社会人受け入れ	●	●	
	温泉コンシェルジュ応用	金中	坂田	2	10	1~4	講義11コマ フィールドワーク4コマ予定 社会人受け入れ pptで成果物作成	●	●	
成法大学	経済科目免除						●	●		

「創」…大分の創人材を育成する科目  
「と」…とよまなびコンソーシアムおいた単位互換科目



### 3. FD・授業評価部門

本部門の主な活動は、本学の教育改善を目的として、よりよい授業を実施するための研修会の企画と実施とともに、その授業の効果を測定するための、学生による授業評価アンケートの実施と分析・報告書の作成を主としている。それ以外にも教員からの個別の授業改善の要望に応じて授業のコンサルティング、授業を支援する教育機器の相談、教室整備へのアドバイス等を行っている。また、教育改善に関する他大学の動向についての調査、研究も従来から継続している。また、本年度も大分大学を中心として実施されている「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」について教育改善の立場から関与している。本年度は以下のように事業を行った。

#### 【平成 28 年度の主な取り組み】

##### （1）FDに関連する事業として、実施した研修会・講演会

###### ①FD・SD 研修会 教育サロン型 FD・SD 研修会「自発的に学生が動き出す仕掛けとは」

この研修会は、大学への普及が進みつつあるアクティブラーニングについて実地に学ぶとともに、既設の授業をアクティブラーニング化するためのノウハウを学ぶ場として企画した。また、講演には、大分大学が取り組む「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に関連し、北九州市立大学地域共生センターが取り組む、学生主体の地域課題解決学習について、同大学教員村江史年氏に講演をいただいた。

日 時：平成 28 年 6 月 4 日（土）13：00～18：00

場 所：ホルトホール大分（サテライトキャンパスおおいた）

概 要：3 部構成（第 1 部：実習 1・2，第 2 部：話題提供，第 3 部：実習 3・4）

13:00 開会行事：教育サロン型研修会の主旨説明

13:10 第 1 部 ラーニングバリュー本田氏による実習（グループワーク）

実習 1 グループ作り（行動特性に基づく分類の活用）

実習 2 アイスブレイキングによる雰囲気作り

14:50 第 2 部 話題提供 北九州市立大学地域共生教育センターの事例

北九州市立大学 村江史年氏（本学 OB）

地域課題に取り組むことで学生が成長する事例の紹介

16:20 第 3 部 ラーニングバリュー本田氏による実習（グループワーク）

実習 3 グループでのディスカッション

実習 4 各グループの成果を全体で共有

17:50 閉会行事

18:00 終了

主な活動は、アクティブラーニング授業の一例として、学習集団の作り方と運営の方法（実習 1・2），学生が自発的に地域で活動し成長している大学の事例紹介（話題提供）を踏まえたグループディスカッション（実習 3）と教室全体での情報共有（実習 4）までの、一連の授業スタイルを実習した。

## 参加者

所 属	氏 名
教育学部	山下 茂
経済学部	宮下 清, 久保田 亮
工学部	堤 紀子, 鈴木 絢子, 古家 賢一, 寺井 伸浩, 西野 浩明
その他	越智 義道 (大分大学理事), 安部 恵祐 (全学研究推進機構 URA チーム室), 坂井 美恵子 (国際教育研究センター), 別木 達彦 (大分大学大学院), 岡田 正彦, 鈴木 雄清, 牧野 治敏 (高等教育開発センター)
学外	村江 史年 (北九州市立大学), 山口 住夫 (福岡大学), 西村 靖史 (別府大学), 甲斐 和幸, 安藤 浩二, 坂口 孝太, 本田 貴継, 藤井 保久

学生：3名 (APU：1名, 大分大学大学院：1名, 大分大学：1名)

### 【意見・感想等】

「本日のサロンの満足度についてお聞かせください」

とても満足した 32% (7名), 満足した 68% (15名),

どちらとも言えない 0%, あまり満足しなかった 0%, 全然満足しなかった 0%

### 【教員・職員】

- 北九州市立大学の取り組みについて詳しく学べた。
- 非常に (授業というより, 自分自身にとって) 参考になった。
- 教員が変わること ↔ 学生への影響。
- 内容は想像と違ったが来て良かった。
- 初めて参加し, 大変勉強になった。
- アクティブラーニングの一端を考えさせていただいた。
- 学生やいろんな学部の人と交流でき, いろんな考えを聞くことができた。
- 改めて自己を見つめなおすいい機会となった。
- 自分なりに全体の構築, 位置付けが検討できたこと。
- 大学内の FD であり COC の内容を考えるという目標の下の会なので自由度がやや固かった。
- 大分大学の多くの教員が参加され, アクティブラーニングへの興味の高さがわかった。
- 皆さんの考え, 意識を知ることができ良かった。
- テーマとのズレが感じられた。
- 村江先生のお話は具体的で, 学生の様子がよくわかりました。
- ありがとうございました。いい刺激をもらいました。
- 互いのいろいろな意見交換ができてとてもよかった。
- 満足した。
- 毎回得るものがたくさんあります。
- とっかかりのプログラムとしては素晴らしい。これだけ長時間にもかかわらず, 時間が押して

振り返りの時間がとれなかった点が残念。

- 学生の自発性を促す際のキーワードがはっきりとしたため。
- 地域で活動する学生のモチベーションをどう高めるかについて意見交換ができ、有意義であった。
- グループの分け方（アンケート結果を用いた「ちがひ」に基づくグループ化）はとても参考になりました。授業で試したいと思います。

### 【学生】

- 多くの方々とグループディスカッションやお話を聞く場に来たことで、貴重な体験をすることができ、非常にタメになりました。
- 普段は学べないプログラムで、非常に新鮮な感じで、研修に参加できた。
- 様々なバックグラウンドを持った方々と対等に意見を言いあえたとても、貴重な体験となりました。本当に良い交流の場、そしてグループワークでした。
- 新たな出会い、思考などがあったので楽しかったです。

### ②学生のメンタルヘルス講演会

本公演会は保健管理センターとの共催で、学生に対応する教職員が知っておくべき学生の心の状態、その読み取り方等を学ぶ場として、毎年実施している。本年度は大分県ころとからだの相談支援センター所長、土山幸之助氏に、講演をいただいた。

日 時：平成 28 年 6 月 29 日（水） 14：50～16：20

場 所：教養教育棟 35 号教室（旦野原）

看護学科校舎棟 222 講義室（挟間） ※遠隔配信

テーマ：心理的な健康を保つために ストレス対処、自殺対策など

講 師：土山 幸之助氏（大分県ころとからだの相談支援センター所長）

概 要：保健管理センター堤先生よる本学の卒業生でもあるとの講師の紹介に引き続いて、土山氏の講演が始まった。最初に大分県心とからだの相談センターの概要が説明された。また、緊急時への対応として、熊本大分震災時の熊本での DMAT の様子が紹介された。

本公演会の話題は 3 つ。

- (1) ストレス対処：自分なりのストレス対処法を身につけるための考え方。困ったときには周囲への援助を求める。
- (2) 自殺対策：問題解決能力を身につける、周囲との人間関係を再構築する・あるいは新たに築くが大切である。自殺を考えるような危機的な状況は、生きていくうえで、誰でもおこる可能性がある。困った時には、助けを求めることが大切である。どこに助けを求めるかを知っておいて欲しいこと。
- (3) うつ病について：誰でもなる可能性のある、ありふれた病気であること。症状の特徴を知っておく。重症になると自分で病気という自覚が乏しくなる場合がある。適切な治療によって改善する。

上記の内容にそって、具体的なデータや対処方法、ストレスチェックの実習などを踏まえて、分かりやすい講演が行われた。

参加者

所 属	氏 名
教育学部	山元 每美, 藤野 陽生
経済学部	小野 宏, 河野 憲嗣, 加藤 典生
医学部	上野 徳美, 隅田 眞樹子, 中川 幹子, 土器屋 美貴子, 森 茂, 森田 則之, 加隈 哲也, 木村 美香, 出川 隆富, 今井 浩光
工学部	益子 洋治, 厨川 明, 濱本 誠, 高坂 拓司, 上見 憲弘, 後藤 雄治, 前田 寛, 今戸 啓二, 小田 和広, 賀川 経夫, 齋藤 晋一, 堤 紀子, 鈴木 絢子, 福永 道彦, 小林 祐司, 岩本 光生, 池部 実, 小畑 経史, 富来 礼次, 野中 嗣子, 大鶴 徹, 福田 亮治, 高橋 志乃, 原 恭彦, 大津 健史, 高見 利也, 大竹 哲史, 西野 浩明
福祉健康科学部	村上 裕樹, 河野 伸子
その他	木戸 芳香 (医学部保健管理センター), 笹島 三幸 (旦野原保健管理セ ンター), 佐藤 幸江, 中尾 亜紀, 佐藤 智久, 加藤 梨沙 (学生支援 部教育支援課), 那須 純次, 新家 聡 (学生支援部学生支援課), 馬原 之孝, 佐藤 俊子 (監査室), 鈴木 雄清, 牧野 治敏 (高等教育開発センター)

学生 8名 (教育学部: 2名, 経済学部: 1名, 福祉健康科学部: 3名)

【意見・感想等】

- ストレスが悪いものでもないとわかりすっきりしました。ありがとうございました。
- ストレスは悪い事だけでなく、色んな効果がある事も分かり、物事を前向きに捉える良い機会となりました。ありがとうございました。
- ストレスを感じる性質であることが良く理解できた。そのストレスを交わすこと、対処することを今後の課題にし、より楽しく過ごしていきたいと思いました。
- ストレスとどのようにつきあっていくかについて、わかりやすい説明でした。
- ストレスとつきあっていく考え方とコミュニケーションが大事であることを学びました。良かったです。
- ストレスの耐性についてお話を聞けてとても有意義な時間でした。ありがとうございました。
- 人への思いやりが回復に向けられているということを知り得る事ができました。
- 相手の話を聞く「傾聴」が大切であるというお言葉が印象的でありましたが、その後のアドバイスの対処が、心理支援士として、今私が抱えている問題点でもあります。
- 本日はお話を伺うことができ、ありがとうございました。
- ストレスはあってあたりまえと思うので、自分の考え方、気の持ちようでもプラスに生かせることに改めて気づかされた。他のせいにするのではなく、己の人間性を見つめるようにしたいものだ、と思えたことで「今」の自分の「ストレス」をうまく転換できたかも。
- ストレスの対処、生活の工夫を取り入れるとともに、仕事の仕方、考え方の工夫について本日

の講演会の内容を取り入れていきたいと思います。

- 日頃からストレスとうまく付き合っていけるよう、生活スタイルや趣味を充実させていきたいと思います。
- ストレスをバネにしていこうと感じます。趣味がないので見つけてみようと思いました。ありがとうございました。
- 自分の性格について、知る機会となり良かったです。ストレスがあっても、考え方次第なので、ポジティブに捉えることができるよう心がけたいと思いました。
- 年齢や経験を重ねて、以前より楽に自分のことを考えることができるようになった気がしています。また、そのことに気付いた事も良かったと思っています。ストレスに意義を見つけ、適度にこれからもストレスと付き合っていこうと思います。
- ありがとうございました。お疲れ様です。
- 大変貴重なお話を聞くことができ、勉強させていただきました。改めて自分のストレスへの対応についても考えなおす機会となりました。ありがとうございました。
- 私はACが一番高く、CPが一番低かったです。改善すべきことなどがわかったので、これからの生活に生かせたらなと思います。
- ストレスは悪いものと思ってましたが、そうではないことが分かり驚きました。うまくバランスをとっていきたいです。ありがとうございました。
- ストレスに対する考え方、対処法など実際に試してみたいと思いました。大変勉強になったので自分のストレスだけでなく人のストレスに対処してあげられるようになりたいと思いました。
- エゴグラムなどで自分の特徴が大まかに理解できたのはとても良かったです。貴重な体験となりました。心理学を専攻する者として、この機会をポジティブに捉えて、これからも頑張っていこうと決意を新たにしました。
- 本日はお忙しい中、お時間をとって頂き興味深いお話を聞かせて頂いてありがとうございました。私は大学に入り、心理分野を専攻し学んでいく中で1つの物事に関する多様な捉え方、考え方があることを知り、非常に明るい性格になれたと思っています。どんなストレス発散行動を行うよりも、ネガティブな考え方を変えることのほうが、大きなストレス解消につながることを身をもって感じているところです。私の姉は、非常にストレスを受けやすいタイプで、常に神経をはりめぐらしているような状態にあります。そんな姉を理解するための手助けとなりました。本当にありがとうございました。
- 実際に心理検査のようなものをして自分の傾向を知れたことがよかった。
- ストレスの考え方、物事に対する見方を工夫してみようと思いました。
- ストレスの対処法についての知識を得ることができたので良かった。
- ストレスが悪いものばかりではなく、何かしらの意義があるのかもしれないと知り、時間をかけてでもストレスの転換ができればと感じました。
- ストレスの対応性をしっかりと身につけることや適切につきあっていくことが必要だということが分かりました。
- 実際にテストで分かり自分がどんなタイプか分かりました。内容もとても興味深かったです。考え方に偏っているなど自分が感じる機会が多いので、考え方の転換の話などとても参考に



なりました。

- 別府短大の保育科時代に心理学の分野で飯田先生から講義を受けていたので、久々に先生のお話を聴けて嬉しかったです。適度なストレスは生き生きとさせるというのは興味深いです。試験前などストレスを感じながらも、「よっしゃー」という気持ちにもなります。「あー今日はもう疲れた」というような日が半年に1度くらいあり、そんな日に当たった時は、思い切って学校も休んじゃいます。しかし、FCが一番高い結果となったので、自己中心的にならないように心がけたいと思います。本日はありがとうございました。
- ストレスの効果には、困難に対処する能力や人とのつながりを強める、学びや成長につながるということがあるのだと学んだ。私はストレスを受けやすいタイプだと思いますが、ある物事を前向きに捉えたり意義を見出すことを心がけたいと思いました。また、本当にストレスを抱えたときに相手にやさしくしようとするのは個人的に難しいことだと感じました。そして、周りの人に相談する勇気も必要であると感じました。
- 貴重なお話を聞くことができ本当に良かったです。ありがとうございました。自分のことを振り返りながら色々なことを整理できた気がします。これからもストレスと上手に付き合いながら、ポジティブに楽しく毎日を過ごしたいと思いました。そして、自分に余裕をもつことで、周りの人やクライアントさんにもゆったりと接していきたいです。
- ストレスについて、様々なことを学べて良かったです。エゴグラムチェックリストは円満型でしたが、良い面、悪い面どちらも当てはまる点があったように思います。自分について知り、ストレスと向きあっていきたいです。そして適度なストレスとともに生き生きと生活していきたいです。
- ストレスはなくすものではなくて、回避・軽減していくものだとわかった。また、適度なストレスは張りのある生活を送れるというのも知らなかった。エゴグラムチェックの結果で自分は他人に追従しがちで、自分の意見がないといった傾向があるらしいとわかった。この結果には納得でき、自分の考えというものを持っていくようにしたいと思った。
- ストレス社会で生きていく上で自分自身の身体を思いやることも大切だが、社会全体でストレスを弱めていく方法を模索していく必要もあるだろう。
- ストレスが貯まっているときに自覚するのは難しいと思うが、今度から意識していきたいと思う。ストレスのプラスの面も意識したいと思う。
- 懸賞論文でストレスチェック制度やメンタルヘルスについて調べていて、掲示板を見て講演会について知りました。自分の考え方のクセや人間関係について分かりやすく分析ができて楽しかった。最後にありましたが「人に頼ってみる」がやはり一番のメンタルヘルスケアになるのだということが分かりました。また、自分が知らず知らずのうちに、様々なストレスを交わしているということが分かり、面白かったです。
- ストレスのためすぎは良いことではないが、適度なストレスであれば逆によいという点は意外だった。
- 具体的な対処法を紹介してもらい、よかった。
- 途中参加でしたが、話の根拠（実験や統計の方法など）を示して頂けるとさらに宜しいかと思えます。ボンヤリした話が多く、「なぜ、そう言えるのか？」疑問に感じるところが多かったです。心理学の実験法は非常に進んでいると思いますし、興味のあるところです。

- ストレスのもたらす様々な効果と対処法を知ることができました。ケースバイケースで難しいと思いますが、ストレス下にある学生へのうまい対処法などについてお話をうかがえればなお良かったと思います。
- 若い頃より、ストレスというものを受ける機会が増えたと思うので、ストレス対策の方法などがためになった。
- 非常に分かりやすい講演で、大変参考になりました。ストレス耐性を向上させるように、自分なりの工夫をしたいと思います。
- ストレスを受けにくいタイプになれるようにしたいと思います。
- 他者との繋がり方と、繋がられ方を選ぶこともストレスの大きな要因と思い直しました。
- とても分かりやすかったです。

### ③オンラインセミナー

FDの内容は全国の大学共通な話題も多い。本公演会は地方創生・活性化事業の一つとしてフューチャーセンターの概要について、民間企業が提供するシステムによるオンラインのFD研修である。昨年度にアクティブラーニング教室を設置し、その利用形態についても学ぶ必要があり、本オンラインセミナーをFD研修会として受講した。

日 時：平成28年7月1日（金） 15：30～17：00 ※接続開始15：20～

場 所：教養教育棟28号教室（旦野原）

テーマ：これからの大学は何をするべきか？

豊かな地域社会の未来をつくる対話の場 『大学×フューチャーセンター』

内 容：1. 「クリエイティブスクールの未来」ー海外の大学が取り組む新しい実践知ー

講師：コクヨ株式会社「WORKSIGHT」編集長 山下 正太郎氏

2. 「地域創生へ向けた対話の場」

ー徳島大学が設置する国立大学初のフューチャーセンター「A.BA」の挑戦ー

講師：徳島大学大学院教授 地域創生センター長 吉田 敦也氏

3. パネルディスカッション 『これからの大学は何をするべきか？』

～フューチャーセンター創設で変わる開かれた大学環境～ 山下氏×吉田氏

4. 質疑応答

上記のWEBオンラインセミナーを28号教室（途中から25号教室）のスクリーンに投影し、受講した。

参加者：高等教育開発センター教員2名

### ④授業公開・授業検討会による研修会

授業改善のために、通常実施されている授業の1回を公開し、その授業を参観した参加者間で意見交換する授業検討会を企画、実施した。本年度はアクティブラーニングを全学的に普及させる意図から、後期教養教育科目である「大分の人と学問」の対面授業2回分を公開授業とした。本授業は大分県の大学の共同により実施される授業であり、講義の13回分はeラーニングで実施し、2回分を対面授業としている。授業公開はその2回分の対面授業である。

日 時：平成28年11月19日（土）13：10～16：20

場 所：大分大学学術情報拠点（図書館）1階ラーニングcommons（旦野原キャンパス）

テーマ：「大分県の人物」を紹介するパネルの作成

内 容：アクティブラーニングによる調べ学習とプレゼンテーション。ワールドカフェ。

- ・受付（13：00より）ラーニングcommonsで、名簿の確認
- ・授業の概要と主旨の説明。グループづくり（自己紹介、アイスブレイクを兼ねる）
- ・グループ毎に調べる人物を選定し、その資料を集める。同時に他グループの状況を視察。
- ・調べ学習と、発表用ポスターの製作（PCによるパワーポイント1枚スライド）
- ・プレゼンテーションとその審査（クリッカー使用）。結果発表と表彰。
- ・振り返り。まとめの用紙への記入。終了。

授業公開への参加者はありませんでした。

#### ⑤きっちよむフォーラム2016

学生教職員合同研修会として毎年開催する研修会である。本年度は全学的なアクティブラーニングの推進という立場から高等教育開発センター教員が他大学での情報収集や研修会参加によって得た授業技術を実践的な授業の中で紹介するという手法を採用した。

日 時：平成28年12月19日（月）14：50～16：20（4限）

場 所：教養教育棟28号教室（旦野原）

テーマ：アクティブラーニングについて考える～共同学習の視点から～

内 容：当日の研修会は以下のようなものである。

- ・オープニング センター長挨拶
- ・講義 アクティブラーニングについて（全学的なアクティブラーニングの必要性について）
- ・グループ作り 教職員と学生の混成による学習グループ作り。意見の出しやすい雰囲気作り
- ・LTD 話し合い学習法の体験  
予習（話し合い活動のための準備）、LTD 話し合い学習の意義と効果、ミーティング（話し合い活動の実践）
- ・クロージング 閉会行事

参加者

所 属	氏 名
経済学部	宮下 清, 西村 善博
工学部	西野 浩明, 原 稔 稔幸, 金澤 誠司, 賀川 経夫, 岩本 光生
その他	比江島 香予子（教育支援課）

学生4名

#### ⑥「e トーカー」使用説明会

昨年度に旦野原キャンパス教養教育棟28号教室の改修に伴いに導入された電子黒板活用のための授業支援システム「e トーカー」の使用説明会を開催した。



日 時：平成 29 年 3 月 28 日（火）14：00～15：00（準備 13：00 より）

場 所：教養教育棟 28 号教室（旦那原キャンパス）

講 師：田脇美春氏（パナソニックシステムネットワークス株式会社）

参加者

所 属	氏 名
教育学部	清水 良彦
工学部	岩下 拓哉, 小畑 経史
国際教育センター	金森 由美, 坂井 美恵子
その他	鈴木雄清, 牧野治敏（高等教育開発センター）

## （2）学生による授業評価アンケート調査

本学の授業改善を目的とした、学生による授業評価の実施母体である教務部門会議の活動を支援するために、全学統一した授業評価アンケートの立案、作成及び調査結果の集計と分析を行い、報告書を発行している。本年度刊行した報告書は「平成 27 年度教員による自己点検レポート集～学生による授業評価への対応～」 「平成 27 年度授業改善のためのアンケート調査結果報告書～学生による授業評価～」である。

また、全学的な授業評価アンケートの見直し作業のために、全学教育機構運営会議を母体に構成された授業評価アンケート見直しワーキングに、専門的な立場として参加した。

平成 28 年前学期及び後学期に実施した「学生による授業評価」アンケート調査の調査対象は以下のとおりである。

前学期

- ・教養教育（全学教育機構）：全学共通科目（人文分野）＊ゼミナール科目を除く
- ・教育福祉科学部：A グループ(授業担当者の名前あ～こ)
- ・経済学部：各学科最初の講座の科目，学科共通科目
- ・医学部：医学部からの提出科目
- ・工学部：全科目
- ・福祉健康科学部：全科目

後学期

- ・教養教育（全学教育機構）：全学共通科目（社会分野）
- ・教育福祉科学部：B グループ(授業担当者の名前さ～の)
- ・経済学部：各学科 2 番目の講座の科目
- ・医学部：医学部提出科目
- ・工学部：全科目
- ・福祉健康科学部：全科目

### ① 平成 28 年度前期授業改善のためのアンケート対象科目

<b>【教養科目】</b>	江戸時代の日本と世界（鳥井 裕美子）
東アジア史の諸相（甘利 弘樹）	器楽の楽しみ（田中 星治）
西洋思想の源流（黒川 勲）	美の世界（荻野 哉）

大分県の歴史Ⅰ (吉永 浩二)  
 図像学の世界 (高瀬 圭子)  
 日本文化論 (大久保 渡)  
 共生社会論 (八木 直樹)

**【教育福祉科学部／教育学部】**

西洋文明論Ⅰ (青柳 かおり)  
 生活(小) (麻生 良太)  
 世界史概説Ⅱ (甘利 弘樹)  
 現代アジア論 (甘利 弘樹)  
 幾何学Ⅰ (家本 宣幸)  
 西洋言語論 (池内 宣夫)  
 人体解剖学 (石橋 健司)  
 生理学(運動生理学を含む。) (石橋 健司)  
 生涯スポーツ演習 (石橋 健司)  
 運動生理学 (石橋 健司)  
 工業科指導法(高) (市原 靖士)  
 技術科教育演習 (市原 靖士)  
 教育メディアとコンピュータ (市原 靖士)  
 教育メディアとコンピュータ (市原 靖士)  
 教師学 (伊藤 安浩)  
 授業研究 (伊藤 安浩)  
 教師学 (伊藤 安浩)  
 教育実践の基礎 (伊藤 安浩)  
 障害児教育総論 (衛藤 裕司)  
 知的障害児の心理・生理・病理 (衛藤 裕司)  
 学習障害(LD)児等の心理と指導法  
 (衛藤 裕司)  
 特殊教育論 (衛藤 裕司)  
 障害児教育総論 (衛藤 裕司)  
 地球化学 (大上 和敏)  
 環境科学概論 (大上 和敏)  
 基礎環境化学実験Ⅰ (大上 和敏)  
 環境化学概論 (大上 和敏)  
 コンピュータ (大隈 ひとみ)  
 情報科学のための英語 (大隈 ひとみ)  
 データ分析と統計 (大隈 ひとみ)  
 知能情報処理 (大隈 ひとみ)  
 解析学Ⅲ (大野 貴雄)  
 解析学Ⅰ (大野 貴雄)

算数(小) (川寄 道広)  
 教育数学Ⅰ (川寄 道広)  
 算数科指導法(小) (川寄 道広)  
 算数科授業論 (川寄 道広)  
 住居学Ⅰ(製図を含む) (川田 菜穂子)  
 住居計画学 (川田 菜穂子)  
 住生活論(製図を含む。) (川田 菜穂子)  
 現代芸術事情 (久間 清喜)  
 芸術表現応用AⅠ(絵画) (久間 清喜)  
 芸術表現展開法 (久間 清喜)  
 歌唱指導演習 (栗栖 由美子)  
 合唱Ⅲ (栗栖 由美子)  
 合唱Ⅴ (栗栖 由美子)  
 コーラスⅠa (栗栖 由美子)  
 コーラスⅡa (栗栖 由美子)  
 グループ表現Ⅰa (栗栖 由美子)  
 表現構成演習Ⅱa (栗栖 由美子)  
 哲学概論Ⅱ (黒川 勲)  
 思想史概論Ⅰ (黒川 勲)  
 比較思想論Ⅱ (黒川 勲)  
 倫理学 (黒川 勲)  
 肢体不自由児の教育と指導法 (古賀 精治)  
 重複障害教育総論 (古賀 精治)  
 絵画ⅢB(a) (久間 清喜)  
 アートマネジメントⅠ (久間 清喜)  
 英詩研究 (稲用 茂夫)  
 イギリスの言語と文化 (稲用 茂夫)  
 言語・外国語(仏)Ⅰ (大嶋 誠)  
 法学概論Ⅰ (織原 保尚)  
 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ  
 (倉知 延章)  
 家庭管理学(家庭経済学及び家族関係学を含む。)  
 (後藤 直子)  
 漢文学概論 (近藤 則之)  
 経済学概論Ⅰ (石井 まこと)  
 国際関係論Ⅰ (高山 英男)  
 児童・家庭福祉論 (相澤 仁)  
 現代社会論Ⅰ (大杉 至)  
 社会学概論Ⅰ (大杉 至)  
 社会学 (大杉 至)

地域福祉論Ⅰ (川村 岳人)  
 ソーシャルワーク概説Ⅱ (衣笠 一茂)  
 精神保健福祉の理論と相談援助展開Ⅳ  
 (衣笠 一茂)  
 ソーシャルワーク演習Ⅰ (衣笠 一茂)  
 基礎ゼミⅡ (工藤 修一)  
 高齢者福祉論Ⅰ (工藤 修一)  
 教育心理学研究法Ⅰ (古城 和敬)  
 教育心理学 (古城 和敬)  
 心理教育統計法 (古城 和敬)  
 心理学研究法 (古城 和敬)  
 社会心理学 (古城 和敬)  
 心理教育統計法 (古城 和敬)  
 現代社会と福祉 (垣田 裕介)  
 合唱Ⅶ (栗栖 由美子)

### 【経済学部】

マクロ経済学Ⅰ (宇野 真人)  
 簿記Ⅰ (越智 学)  
 ミクロ経済学セミナー (下田 憲雄)  
 地域福祉論 (垣田 裕介)  
 地域経営論Ⅰ (久木元 美琴)  
 経営学入門 (宮下 清)  
 経営学Ⅰ (宮下 清)  
 地域構造論Ⅰ (宮町 良広)  
 都市経営論Ⅰ (高島 拓哉)  
 経済学Ⅲ (佐藤 隆)  
 政治経済学Ⅰ (佐藤 隆)  
 農村発展論Ⅰ (山浦 陽一)  
 簿記Ⅰ (小野 慎一郎)  
 経営情報論Ⅰ (松岡 輝美)  
 流通論Ⅰ (松隈 久昭)  
 比較地域分析Ⅰ (城戸 照子)  
 統計学Ⅰ (西村 善博)  
 経済学Ⅰ (相浦 洋志)  
 ミクロ経済学Ⅰ (村山 悠)  
 経済学Ⅱ (村山 悠)  
 基礎経営論Ⅰ (藤原 直樹)  
 ビジネス英語B  
 (ホワイト クリストファー ミル)

組織革新論Ⅰ (本谷 るり)  
 西アフリカの経済発展と貧困削減  
 (木村 雄一)

### 【医学部】

保健政策論 (杉田 聡)  
 看護アセスメント学Ⅱ (原田 千鶴)  
 看護学概論 (原田 千鶴)  
 地域生活支援方法演習 (志賀 たずよ)  
 栄養学 (濱口 和之)  
 内科系疾病論Ⅰ (濱口 和之)  
 看護研究方法論 (濱口 和之)  
 成人周手術期看護方法論 (末弘 理恵)

### 【工学部】

伝熱学Ⅰ (橋本 淳)  
 機械設計学基礎 (橋本 淳)  
 流体工学Ⅰ (栗原 央流)  
 材料と弾性の力学 (後藤 真宏)  
 材料力学基礎・演習 (後藤 真宏)  
 機械製図 (後藤 真宏)  
 機械物理 (山本 隆栄)  
 機械数学Ⅱ (石松 克也)  
 システム制御基礎 (中江 貴志)  
 熱力学基礎・演習 (田上 公俊)  
 メカトロニクス (田上 公俊)  
 機械工学実験Ⅰ (田上 公俊)  
 熱工学Ⅱ (田上 公俊)  
 機械力学基礎・演習 (劉 孝宏)  
 流体力学基礎・演習 (濱川 洋充)  
 伝熱学Ⅰ (岩本 光生)  
 機械設計製図Ⅰ (岩本 光生)  
 機械設計製図Ⅱ (岩本 光生)  
 エネルギーシステムデザイン (後藤 雄治)  
 エネルギー変換機器 (後藤 雄治)  
 電気回路Ⅱ (高坂 拓司)  
 流れ学Ⅰ (山田 英巳)  
 流体工学Ⅰ (山田 英巳)  
 弾性力学 (小田 和広)  
 材料力学Ⅰ (小田 和広)  
 機械要素設計学 (福永 道彦)

機構学	(福永 道彦)	情報システム概論	(大竹 哲史)
電磁気学 I	(濱本 誠)	ソフトウェア工学 II	(大竹 哲史)
電気理論基礎	(濱本 誠)	基礎プログラミング	(中島 誠)
電気回路 I	(金澤 誠司)	計算機科学概論	(中島 誠)
電磁気学 I	(金澤 誠司)	情報構造論	(中島 誠)
電気回路 III	(戸高 孝)	基礎代数学 1	(田中 康彦)
電気電子工学入門	(戸高 孝)	基礎解析学 3	(田中 康彦)
電磁気学 IV	(戸高 孝)	基礎代数学 3	(田中 康彦)
電気機器設計・製図	(佐藤 尊)	基礎解析学 1	(田中 康彦)
電力エネルギー工学	(市來 龍大)	基礎代数学 1	(渡邊 紘)
電気電子数学 I	(柴田 克成)	基礎解析学 3	(渡邊 紘)
電気工学概論 I	(柴田 克成)	基礎代数学 3	(渡邊 紘)
電気電子制御工学 I	(柴田 克成)	基礎解析学 1	(渡邊 紘)
音響工学	(秋田 昌憲)	データベースシステム	(二村 祥一)
通信工学	(秋田 昌憲)	データサイエンス基礎 II	(和泉 志津恵)
電気機器工学 II	(槌田 雄二)	知識処理論	(末田 直道)
電気電子計測工学	(槌田 雄二)	分析化学	(井上 高教)
力学 I	(末谷 大道)	物理化学 I	(永岡 勝俊)
物理学基礎	(末谷 大道)	原子と分子	(原田 拓典)
計算機工学 I	(緑川 洋一)	錯体化学	(甲斐 徳久)
電子回路 II	(緑川 洋一)	高分子化学 II	(氏家 誠司)
基礎電磁気学	(近藤 隆司)	高分子化学 I	(守山 雅也)
物理学基礎	(近藤 隆司)	有機化学 II	(石川 雄一)
電気工学概論	(西嶋 仁浩)	基礎理論化学 I	(大賀 恭)
物理学実験	(近藤 隆司)	原子と分子	(大賀 恭)
力学 I	(長屋 智之)	化学工学	(平田 誠)
物理学基礎	(長屋 智之)	建築耐震システム	(菊池 健児)
情報論理学	(古家 賢一)	鉄筋コンクリート構造	(菊池 健児)
情報職業指導	(古家 賢一)	材料力学	(佐藤 嘉昭)
音メディア処理	(古家 賢一)	建築構法	(佐藤 嘉昭)
基礎代数学 1	(寺井 伸浩)	都市計画	(小林 祐司)
基礎解析学 3	(寺井 伸浩)	建築設備計画 I	(真鍋 正規)
基礎代数学 3	(寺井 伸浩)	建築材料	(大谷 俊浩)
基礎解析学 1	(寺井 伸浩)	建築環境計画 I	(大鶴 徹)
データサイエンス演習	(小畑 経史)	建築環境工学 I	(富来 礼次)
コンピュータグラフィックス	(西野 浩明)	建築総論	(鈴木 義弘)
情報ネットワーク	(西野 浩明)	建築計画設計演習 II	(鈴木 義弘)
言語処理	(川口 剛)	福祉環境工学総論	(小田 博道)
計算機アーキテクチャ I	(川口 剛)	機械工学概論 I	(福永 圭悟)
英語コミュニケーション	(大城 英裕)	力学基礎演習 I	(松尾 孝美)

計測工学 (上見 憲弘)  
 応用解析Ⅱ (福田 亮治)  
 応用解析Ⅱ (福田 亮治)  
 Cプログラミング (池内 秀隆)  
 福祉機器工学Ⅰ (今戸 啓二)  
 応用解析Ⅲ (沖野 隆久)  
 応用解析Ⅲ (福田 亮治)  
 応用解析Ⅲ (沖野 隆久)  
 応用解析Ⅳ (沖野 隆久)  
 応用解析Ⅳ (沖野 隆久)  
 電気回路Ⅱ (小川 幸吉)  
 機構力学 (今戸 啓二)  
 電子回路Ⅱ (上見 憲弘)  
 電磁気学Ⅰ (小川 幸吉)  
 情報処理概論 (松尾 孝美)  
 身体運動機能学 (岡内 優明)  
 人間システム信号処理 (上見 憲弘)  
 人間工学 (前田 寛)  
 システム解析 (松尾 孝美)  
 現代制御工学 (菊池 武士)  
 バイオエンジニアリング概論 (菊池 武士)  
 材料力学Ⅰ (今戸 啓二)  
 電磁アクチュエータ (小川 幸吉)  
 応用解析Ⅰ (竹本 義夫)  
 応用解析Ⅰ (竹本 義夫)

力学Ⅰ (後藤 善友)  
 力学Ⅰ (今野 宏之)  
 物理学基礎 (後藤 善友)  
 物理学基礎 (小林 正)  
 基礎代数学Ⅰ (武口 博文)  
 基礎解析学Ⅲ (佐藤 静)  
 基礎代数学Ⅲ (武口 博文)  
 基礎解析学Ⅰ (佐藤 静)

### 【福祉健康科学部】

基礎ゼミ(理学療法コース) (河上 敬介)  
 基礎ゼミ(社会福祉実践コース) (衣笠 一茂)  
 基礎ゼミ(心理学コース) (河野 伸子)  
 福祉健康科学概論 (衣笠 一茂)  
 看護学概説 (宮崎 伊久子)  
 人体の構造と機能及び疾病 (兒玉 雅明)  
 解剖学Ⅰ (紀 瑞成)  
 解剖学実習Ⅰ (紀 瑞成)  
 現代社会と福祉Ⅰ (垣田 裕介)  
 生理学Ⅰ (徳丸 治)  
 心理学概論 (古城 和敬)  
 社会理論と社会システム (大杉 至)  
 医療倫理 (平野 互)  
 環境心理学 (園田 美保)

## ②平成28年度後期授業改善のためのアンケート対象科目

### 【教養科目】

企業会計の基礎 (大崎 美泉)  
 日本国憲法 (橋本 聖美)  
 日常生活のリスクと保険 (佐藤 大介)  
 Education of the World in Comparative  
 Perspective (鈴木 篤)  
 2016 地域ブランディング (石川 雄一)  
 生命保険論～人生を考える～ (藤本 雅巳)  
 日本国憲法 (青野 篤)  
 事業創成入門 (河野 憲嗣)  
 企業ファイナンス入門 (鵜崎 清貴)  
 現代社会と法 (秋山 智恵子)

保育学基礎論 (大野 歩)  
 経済発展と貧困削減 (木村 雄一)  
 経済学で物事をみる (相浦 洋志)  
 変容する日本の雇用社会 (阿部 誠)  
 簿記の基礎 (越智 学)  
 現代国際政治と日本 (鄭 敬娥)  
 大学開放論－社会人の学びと大学生の学び－  
 (岡田 正彦)  
 2016 利益共有型中長期インターンシップ(地  
 域豊じょう型) (石川 雄一)  
 知的財産入門 (富畑 賢司)  
 大分の地域資源 (鈴木 雄清)



**【教育福祉科学部／教育学部】**

家庭科授業論 (財津 庸子)  
 家庭科指導法(小) (財津 庸子)  
 西洋文学論 (佐々木 博康)  
 知的障害児の心理アセスメント  
 (佐藤 晋治)  
 モデリング研究 (佐脇 健一)  
 社会福祉運営管理論 (塩崎 政士)  
 国際経済論Ⅱ (柴田 茂紀)  
 金属加工実習 (島田 和典)  
 エネルギー変換機械 (島田 和典)  
 芸術と鑑賞Ⅱ (清水 慶彦)  
 コンピュータと芸術 (清水 慶彦)  
 人権教育論 (新谷 恭明)  
 オーラル・イングリッシュ  
 (シンプソン リチャード)  
 異文化理解と英語教育  
 (シンプソン リチャード)  
 道徳教育の理論と実際 (鈴木 篤)  
 教育の行政と組織 (住岡 敏弘)  
 現代の教育課題 (住岡 敏弘)  
 バスケットボール (住田 実)  
 体育科指導法(小) (住田 実)  
 保健授業論 (住田 実)  
 生涯健康論 (住田 実)  
 生活科指導法(小) (高浜 秀樹)  
 環境生物学概論(環境生物学含む)  
 (高浜 秀樹)  
 教育臨床学 (武内 珠美)  
 臨床心理学演習 (武内 珠美)  
 図画工作(小)・色彩学 (田中 修二)  
 芸術学演習 (田中 修二)  
 図画工作(小) (田中 修二)  
 表現形式総合論Ⅱ (田中 修二)  
 障害児研究 (田中 新正)  
 障害児教育演習 (田中 新正)  
 再現芸術演習Ⅱ (田中 星治)  
 芸術表現応用BⅡ(ピアノ)a／再現芸術  
 (田中 星治)  
 ピアノⅣ／ピアノⅥ (田中 星治)

音楽(小) (田中 星治)  
 音楽(小) (田中 星治)  
 幼児臨床指導論 (田中 洋)  
 幼児心理学 (田中 洋)  
 インターネット演習 (谷野 勝敏)  
 教職実践演習(教諭) (谷野 勝敏)  
 体育科指導法(小) (田端 真弓)  
 古典文学演習 (田畑 千秋)  
 精神保健学Ⅱ (堤 隆)  
 精神医学・精神医学Ⅱ (堤 隆)  
 現代国際事情Ⅱ (鄭 敬娥)  
 政治学概論Ⅱ(含国際政治) (鄭 敬娥)  
 人文地理学概論Ⅱ (土居 晴洋)  
 被服科学・衣生活の科学 (都甲 由紀子)  
 美術科指導法(中) (富田 礼志)  
 比較文化論 (鳥井 裕美子)  
 スポーツ経営学 (中川 保敬)  
 数学科指導法(中) (中川 裕之)  
 数学科授業論 (中川 裕之)  
 化学Ⅱ (中島 俊男)  
 保育課程総論 (永田 誠)  
 保育の指導Ⅲ (永田 誠)  
 地学実験Ⅱ(コンピュータ活用を含む。)  
 (仲野 誠)  
 オーラル・イングリッシュ (永野 彰史)  
 生物学Ⅱ (永野 昌博)  
 環境生物学Ⅰ (永野 昌博)  
 木材加工学Ⅱ(材料・塗装) (中原 久志)  
 情報システムⅡ (中原 久志)  
 就労支援論 (中村 廣光)  
 気象海洋学実験Ⅱ (西垣 肇)  
 大気海洋科学Ⅱ (西垣 肇)  
 保健体育科授業論 (西本 一雄)  
 保健体育科指導法(中) (西本 一雄)

**【経済学部】**

物権法 (秋山 智恵子)  
 租税法 (伊藤 隆雄)  
 憲法Ⅱ (青野 篤)  
 企業取引法Ⅱ (牧 真理子)

世界経済論 (柴田 茂紀)  
 日本経済史Ⅱ (合田 公計)  
 労働経済論Ⅱ (阿部 誠)  
 交通論Ⅱ (大井 尚司)  
 法学入門 (伊藤 隆雄)  
 法学入門 (牧 真理子)  
 国際関係論Ⅱ (高山 英男)  
 西洋経済史Ⅰ (市原 宏一)  
 グローバル化と政治経済(ディステイーブン)  
 経済学Ⅰ (相浦 洋志)  
 企業ファイナンス論Ⅱ (鶴崎 清貴)  
 保険論Ⅱ (佐藤 大介)  
 債権各論 (藤村 賢訓)  
 経済学Ⅱ (村山 悠)  
 経済地理学Ⅱ (大呂 興平)  
 経営戦略論Ⅱ (仲本 大輔)  
 アジア経済発展論 (木村 雄一)  
 人事システム論Ⅱ (幸 光善)

### 【医学部】

小児看護方法論Ⅰ (幸松 美智子)  
 高齢者支援システム論 (三重野 英子)  
 感覚器疾病論 (穴井 孝信)

### 【工学部】

機械数学Ⅰ (加藤 義隆)  
 伝熱学Ⅱ (橋本 淳)  
 機械計測工学 (栗原 央流)  
 機械工学基礎・演習 (劉 孝宏)  
 材料力学 (後藤 真宏)  
 機械加工学 (松岡 寛憲)  
 システム制御 (中江 貴志)  
 熱工学Ⅰ (田上 公俊)  
 機械力学 (劉 孝宏)  
 流体力学 (濱川 洋充)  
 流体工学Ⅱ (濱川 洋充)  
 伝熱学Ⅱ (岩本 光生)  
 電力システム工学 (後藤 雄治)  
 エネルギー変換工学 (後藤 雄治)  
 制御工学Ⅱ (後藤 雄治)

電気回路Ⅰ (高坂 拓司)  
 流れ学Ⅱ (山田 英巳)  
 材料力学Ⅱ (小田 和広)  
 工業力学 (堤 紀子)  
 機械材料 (堤 紀子)  
 機械工作法 (齋藤 晋一)  
 機械設計製図Ⅲ (齋藤 晋一)  
 電磁気学Ⅱ (濱本 誠)  
 電気回路Ⅱ (金澤 誠司)  
 電磁気学Ⅱ (金澤 誠司)  
 プログラミング (原 正佳)  
 電磁気学Ⅲ (戸高 孝)  
 電気電子材料 (戸高 孝)  
 プラズマ工学 (市來 龍大)  
 電気電子数学Ⅱ (柴田 克成)  
 電気電子制御工学Ⅱ (柴田 克成)  
 通信方式 (秋田 昌憲)  
 電気機器工学Ⅰ (槌田 雄二)  
 物理学実験 (長屋 智之)  
 力学Ⅱ (末谷 大道)  
 電子回路Ⅰ (緑川 洋一)  
 熱力学 (近藤 隆司)  
 データサイエンス基礎Ⅰ (越智 義道)  
 情報数学 (越智 義道)  
 基礎解析学Ⅱ (吉川 周二)  
 基礎代数学Ⅱ (吉川 周二)  
 数値解析Ⅰ (原 恭彦)  
 多変量解析 (原 恭彦)  
 数値解析演習 (原 恭彦)  
 ウェブサイエンス (古家 賢一)  
 ヒューマン・インタフェース (古家 賢一)  
 マルチメディア処理 (行天 啓二)  
 基礎解析学Ⅱ (寺井 伸浩)  
 基礎代数学Ⅱ (寺井 伸浩)  
 オペレーションズ・リサーチ基礎  
 (小畑 経史)  
 オペレーティング・システム (西野 浩明)  
 情報英語 (西野 浩明)  
 計算機アーキテクチャⅡ (川口 剛)  
 デジタル回路 (大竹 哲史)

アルゴリズム論 (中島 誠)  
 基礎解析学Ⅱ (田中 康彦)  
 基礎代数学Ⅱ (田中 康彦)  
 基礎解析学Ⅱ (渡邊 紘)  
 基礎代数学Ⅱ (渡邊 紘)  
 人工知能基礎 (末田 直道)  
 ソフトウェア工学Ⅰ (吉田 和幸)  
 応用化学特別講義Ⅳ (衣本 太郎)  
 機器分析 (井上 高教)  
 遺伝生化学 (一二三 恵美)  
 反応速度論 (永岡 勝俊)  
 物質の状態と変化 (原田 拓典)  
 化学史 (甲斐 徳久)  
 化学結合論 (氏家 誠司)  
 有機化学Ⅰ (守山 雅也)  
 生物化学 (信岡 かおる)  
 触媒化学 (西口 宏泰)  
 生物有機化学 (石川 雄一)  
 有機化学Ⅲ (石川 雄一)  
 物質の状態と変化 (大賀 恭)  
 基礎理論化学Ⅱ (大賀 恭)  
 物理化学Ⅱ (大賀 恭)  
 分離工学 (平田 誠)  
 建築構造設計Ⅱ (菊池 健児)  
 建築構造設計Ⅰ (菊池 健児)  
 塑性設計法 (山本 伸二)  
 建築CAD製図Ⅰ (重田 信爾)  
 都市システム工学 (小林 祐司)  
 建築環境計画Ⅱ (真鍋 正規)  
 構造力学Ⅰ (大谷 俊浩)  
 構造力学Ⅰ演習 (大谷 俊浩)  
 建築環境工学Ⅱ (大鶴 徹)  
 木質構造 (田中 圭)  
 構造解析 (田中 圭)  
 建築計画Ⅱ (姫野 由香)  
 建築環境計画Ⅲ (富来 礼次)  
 建築計画設計演習Ⅰ (鈴木 義弘)  
 工業英語 (HARRAN THOMAS JAMES)  
 力学基礎演習Ⅱ (菊池 武士)  
 ロボット工学 (菊池 武士)

流体工学 (菊池 武士)  
 材料力学Ⅱ (今戸 啓二)  
 福祉機器工学Ⅱ (今戸 啓二)  
 電気回路Ⅰ (小川 幸吉)  
 電磁気学Ⅱ (小川 幸吉)  
 制御工学Ⅰ (松尾 孝美)  
 制御工学Ⅰ (松尾 孝美)  
 制御工学Ⅰ (松尾 孝美)  
 メカトロニクス (松尾 孝美)  
 電子回路Ⅰ (上見 憲弘)  
 人間システム工学 (上見 憲弘)  
 生体運動制御論 (前田 寛)  
 制御工学Ⅱ (池内 秀隆)  
 リハビリテーション工学 (池内 秀隆)  
 CAD演習 (池内 秀隆)  
 確率統計 (福田 亮治)  
 確率統計 (福田 亮治)  
 応用解析Ⅱ (福田 亮治)  
 物理学実験 (末谷 大道)

#### 【福祉健康科学部】

生理学実習 (徳丸 治)  
 発達と学習の心理学Ⅰ (藤田 敦)  
 相談援助の基盤と専門職Ⅰ (衣笠 一茂)  
 心理学基礎実験実習 (村上 裕樹)  
 リハビリテーション医学・概論 (片岡 晶志)  
 生理学Ⅱ (徳丸 治)  
 人間発達学 (紀 瑞成)  
 高齢者福祉論Ⅰ (工藤 修一)  
 心理統計法 (古城 和敬)  
 病理学 (守山 正胤)  
 解剖学Ⅱ (紀 瑞成)  
 現代社会と福祉Ⅱ (垣田 裕介)  
 解剖学実習Ⅱ (紀 瑞成)  
 リハビリテーション心理学 (池永 恵美)  
 ライフサイクルの心理学 (河野 伸子)  
 健康心理学 (岩野 卓)



### (3) 教育改革推進事業の支援

①とよのまなびコンソーシアム大分共通教育分科会に主催者として参加した。

- ・「共通教育事業における e ラーニング教材の作成と取り扱いに関わるガイドライン平成 29 年度版」を作成し、承認を得た。
- ・ガイドラインに基づいたコンテンツの作成について参加大学に提案し、各大学からの授業提供を依頼した。
- ・各大学から提供された授業ビデオを IT 活用部門により授業公開コンテンツとして作成依頼するとともに、2 回分の対面授業を担当した。

②FD の定義案作成

大分大学での FD 参加者数の増加のために、各学部、部署で FD を開催することが COC+からも要請されている。その際に、どのような研修会を FD として認定できるのかについて、全学的な共通理解が必要であるとの依頼により、FD・授業評価部門の知見を活用し、原案を作成した。

(表 1. FD の種類と実施例)

③COC+への支援

大学訪問

- ・COC+先進校訪問（平成 28 年 9 月 6 日（火））熊本学園大学
- ・COC+研修会（平成 29 年 3 月 9 日（木）～10 日（金））日本文理大学湯布院研修所

### (4) 高等教育に関する調査研究

本年度の高等教育に関する調査研究として、他大学での研修会、講演会等に参加した。

①日本高等教育学会全国大会（平成 28 年 6 月 25 日（土）～26 日（日））追手門学院大学

②第 7 回 教育 IT ソリューション EXPO（平成 28 年 5 月 18 日（水）～20 日（金））

東京ビッグサイト/東京ファッションタウンビル（TFT ホール）

③SPOD フォーラム（平成 28 年 8 月 24 日（水）～25 日（木））愛媛大学城北キャンパス

④徳島大学フューチャーセンター視察（平成 28 年 8 月 26 日（金））徳島大学常三島キャンパス

⑤九州地区大学教育研究協議会（平成 28 年 9 月 2 日（金）～3 日（土））鹿児島大学

⑥教育サロン in 熊本（平成 28 年 9 月 10 日（土））崇城大学

⑦名城大学 FD フォーラム ―高大接続改革の狙いと方向性―（平成 28 年 11 月 2 日（水））

名城大学天白キャンパス

⑧徳島大学全学 FD 推進プログラム（平成 28 年 12 月 27 日（火））徳島大学常三島キャンパス

⑨徳島大学大学教育再生加速プログラム（平成 28 年 12 月 28 日（水））徳島大学常三島キャンパス

⑩教育サロン in 九州（平成 29 年 3 月 11 日（土））福岡大学

⑪第 23 回大学教育研究フォーラム（平成 29 年 3 月 19 日（日）～20 日（月））

京都大学吉田南総合館、百周年時計台記念館

表 1. FDの種類と実施例

FDの種類・分類	高等教育開発センター	各学部
教育改善に関わるもの		
講演会		
全学に共通する教育改善に関するもの	アクティブラーニングに関する講演会 学生が自発的に動く仕組み	教員養成
全学共通でないが単一学部におさまらないもの		
各学部・センター固有の話題に関するもの		教員養成
シンポジウム		
全学に共通する教育改善に関するもの	きつちよむフォーラム	
全学共通でないが単一学部におさまらないもの		
各学部・センター固有の話題に関するもの		
ワークショップ		
全学に共通する教育改善に関するもの	アクティブラーニングに関する研修会 ティーチングポートフォリオ作成講習会 WebClass利用説明会 授業支援ボックス使用説明会	
全学的な教育システム・教育機器に関するもの		
学部・センター固有の話題に関するもの		WebClass利用説明会 授業支援ボックス使用説明会
学部・センターに固有な教育システム、機器使用方法		
学部・センター等の共同により効果が期待できるもの		
授業参観・授業検討会	全学共通の授業技術に関するもの	学部等に固有の授業技術に関するもの
他大学・学外での公開FD研修会等	SPOD「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」 教育ITソリューションEXPOセミナー 佐賀大学ティーチング・ポートフォリオ(TPWS)&アカデミック・フォリオ作成ワークショップ(APWS)	
授業評価		
学生による授業評価 教員相互による授業評価	学生による授業評価アンケート	
授業コンサルテーション		
授業全般に関するコンサルテーション	授業コンサルテーション	
学部固有の授業方法、内容に関する相談		ベテラン教員から新任教員への指導・アドバイス
管理運営に関わるもの		
会議等		
全学の教育方針・運営に関するもの	全学教育機構運営会議	
学部の教育方針・運営等に関するもの		教務委員会 カリキュラム検討委員会 JABEE委員会 学部FD委員会
社会貢献		
会議・機構等		
社会貢献のための企画や研修		
研究活動		
学部・研究科		
研究活動の改善に向けての組織的な取り組み		

## 4. 大学開放推進部門・生涯学習支援システム部門

高等教育開発センターにおける生涯学習関連業務は、第3期中期計画において本学における教育及び地域社会の発展に寄与する観点から、本センターが持つ研究開発機能を基盤にして、次の2部門において生涯学習社会の形成に関してのセンターとしての以下の業務をおこなった。

- ①大学開放推進部門において、公開講座・公開授業及び県民・学生への現代的課題への対応に関する学習機会の提供等の大学開放を推進する。
- ②生涯学習支援システム部門において、県内の生涯学習行政や高等教育機関、各種活動組織等とのネットワーク化による県民の生涯学習を支援する。

本年度は第3期中期計画の初年次にあたり、COC+やとよのまなびコンソーシアム大分等との高等教育機関との連携や地方自治体をはじめとする地域の関係機関との連携など地域における生涯学習支援に向けた取り組みを進めるとともに、全国国立大学生涯学習系センター協議会での生涯学習系センターとしての全国的な取り組みへの寄与にも取り組んだ。

### 【平成28年度の主な取組】

#### (1) 部門会議

##### 1) 第1回部門会議

日 時：平成28年5月26日（木）9：00～9：55

議 題：

##### 1. 平成28年度事業計画について（資料1）

岡田部門長から資料1及び机上配付資料に基づき平成28年度事業計画について説明があり、検討の結果、原案のとおり了承された。

また、平成28年度の公開講座等の予算額について報告を行った。（年額2,479千円）

委員からCOC+に関わるセンターの業務について質問があり、次回の会議に資料として提示することとした。

##### 2. COC+に関連する公開授業における受講料の特例について（資料2）

岡田部門長から資料2に基づきCOC+に関連する公開授業の受講料を無料とすることについて説明があり、検討の結果、原案のとおり了承された。

報告事項：

##### 1. 平成27年度事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料3

岡田部門長から、平成27年度の事業報告を資料に基づき行った。

##### 2) 第2回部門会議

日 時：平成28年11月29日（金）9：00～9：30

議 題：

##### 1. 公開講座の追加について・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料1

岡田部門長から平成 28 年度大分大学公開講座に、別紙 1 の 14～16 の 3 件の講座を追加することについて説明し、検討の結果、高等教育開発センター運営委員会に付議することとした。

2. 平成 28 年度計画アクションプランの進捗状況について・・・・・・・・・・資料 2

岡田部門長から平成 28 年 10 月 31 日現在のアクションプラン進捗状況について、別紙 2 に基づき説明し、大学開放プログラムのパッケージ化と履修照明について検討した。なお、原案を高等教育開発センター運営委員会に付議することとした。

3. その他

岡田部門長から、今年度さらに追加予定の講座の開設については、第 3 回大学開放推進部門及び生涯学習支援システム部門会議で検討を行う予定である旨説明があり、その際は、日程調整を行ったうえで会議を開催することとした。

## (2) 専任教員の選考・着任

平成 27 年度をもって定年退職された中川教授の後任として、生涯学習支援システム部門の教員を公募した。27 年度中の一次の選考では、適任者が見つからず、28 年度に入って改めて専任教員の公募を行った。

### 1) 予備資格審査委員会

#### ①予備資格審査委員会（書類選考）

日 時：平成 28 年 5 月 12 日（木）14：50～16：20

場 所：高等教育開発センター センター室 1

内 容：応募があった名の応募書類を検討し、3 名の二次選考合格者を選考した。

#### ②予備資格審査委員会（面接）

日 時：平成 28 年 6 月 2 日（木）14：50～16：30

場 所：教養教育棟 2 階会議室 1

内 容：一次選考で選出した 2 名（選考した 3 名の内 1 名は面接審査を辞退）の候補者に面接審査を実施した。審査の結果、安部耕作氏を候補者として選定した。その後、学内共同教育研究施設等管理委員会、教育研究評議会での承認を経て、8 月 1 日付けで安部氏の准教授としての着任が決定した。

### 2) 安部氏の事業への貢献

安部氏には、着任後、教養教育科目「学習ボランティア入門」および「中小企業の魅力の発見と発信」の主担当をお願いした。授業に関連して外部講師の招聘や実習先への帯同など精力的に対応していただいた。

また、県立図書館の事業に参画した由布市公民館づくり市民塾と中津市三光公民館研修にも参加していただき、グループワークのコーディネートなどを行っていただいた。

残念ながら、安部氏は 12 月に事故で逝去された。ご冥福をお祈りする。

## 【平成 28 年度の事業内容】

### (1) 大学開放と学習機会の提供

本学が持つ高等教育機能を発揮し、県民に対して直接に様々な学習機会を提供することは地域の大学としての価値と存在感をアピールするうえで重要であり、次のような取組をおこなった。

#### 1) 公開講座

公開講座は、各学部が実施する講座と、本センターが研究開発的位置づけや現代的な課題に対応して実施する講座で構成され、開催方法としては、本学が主催する「主催講座」と市町村教育委員等と協同で行う「連携講座」となっている。

平成 28 年度の公開講座は、前期 6 講座、後期 16 講座の計 22 講座（前年度：21 講座）を実施し、受講者の合計は 794 名（前年度：674 名）であった。講座数が 1 講座（4.8%）、受講者が 120 名（17.8%）増加している。

#### 平成 28 年度公開講座

番号	講座名	実施期間	実施時間数	受講者数
1	泳げない子どもの水泳教室	7月27日～8月3日 (7日間)	21	66
2	理科や算数を使って親子で遊ぼう	7月9日～9月3日 (7日間)	14	15 (30)
3	夏休み子ども造形美術教室	7月31日	6	34
4	将棋講座	8月22日～8月27日 (6日間)	12	65
5	手のひらパソコン「ラズベリーパイ」でコーダーデビュー（プログラム）してみよう	8月8日	3	42
6	夏休み機械の仕組み講座	8月19日	2.5	22
7	「地方創成」から学ぶ地域経営とマネジメント	9月29日～10月27日 (5日間)	6.5	36
8	より良く眠るために～快眠のすすめ～	10月8日	1	30
9	新興・再興感染症について	10月8日	1	30
10	超高齢社会に求められる医師とは	10月9日	0.3	50
11	認知症の人に今できること	10月9日	0.3	50
12	大丈夫ですか？くすりの飲み方，使い方！	10月9日	0.3	50
13	これからの地域社会を支える認知症カフェ	10月9日	0.3	50

14	凍った場面を一瞬で溶かす魔法のワークショップ	11月9日	1.5	11
15	私と読書『誕生の瞬間を共にして…』	11月13日	1.5	35
16	爆笑落語！好きなことを学んで、生きがいのできる知恵と工夫	12月14日	1.5	23
17	小学生ラグビー教室	2月5日～3月5日 (3日間)	9	5
18	豊の国学 中央講座 リレー講演会	2月19日	4.5	51
19	第10回地域発「活力・発展・安心」デザイン実践交流会	2月25日～26日	4	68
20	豊の国学 分野別講座「第1回」	3月5日	1.5	28
21	豊の国学 分野別講座「第2回」	3月20日	3	14
22	豊の国学 分野別講座「第3回」	3月26日	1.5	19
			計	794

○公開講座に関する過去5年間の講座数及び受講者数の変化

直近5年間の講座数及び受講者数を示したものが図1図2である。

子ども・家族対象の講座では、平成24年度のみの実施の「子どもサイエンス2012」の1,250名を除くと受講者数は600人後半から700人程度とほぼ横ばいであったが、平成28年度は794人と若干増加した。近年は大規模講座での集客という観点よりも、社会的必要が高いと考えられるテーマでの小規模で参加型の講座を増やしている影響もあり、講座数や受講者数のみを重点とせず、量的充実を図りつつも社会的意義の高い講座の開発に努めていきたい。

平成24年度から「とよの学びコンソーシアムおおいた」の公開講座として開設している「豊の国学」は、中央講座と分野別講座を合わせて112名の参加があった。各学部からそれぞれ1名の教員を推薦して、1名は中央講座の講師に、残りの方は分野別講座の講師にと、大分大学からとよのまなびコンソーシアム大分での連携講座に講師を送り出す仕組みができあがった。

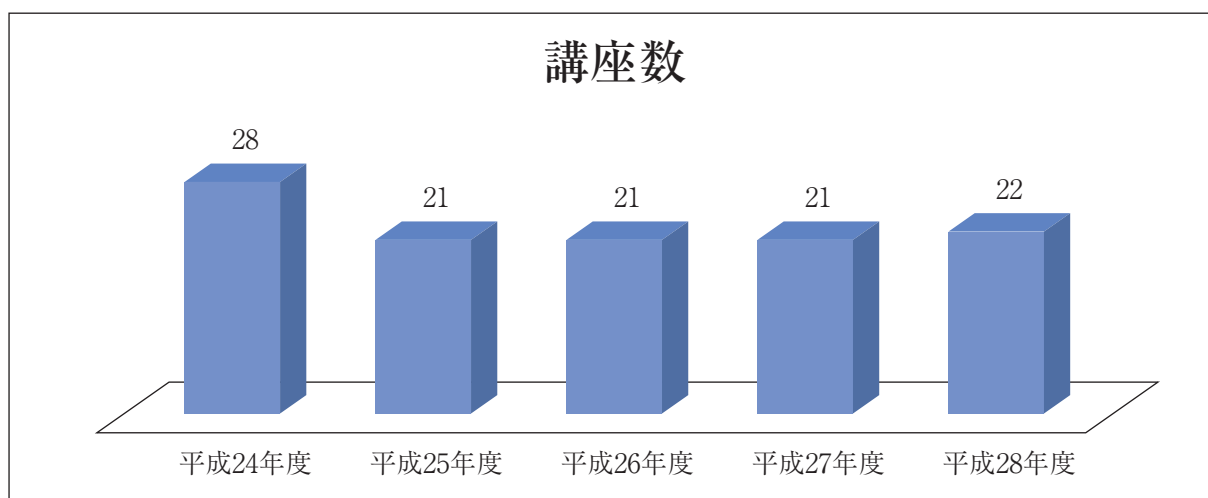


図1 過去5年間の公開講座の講座数



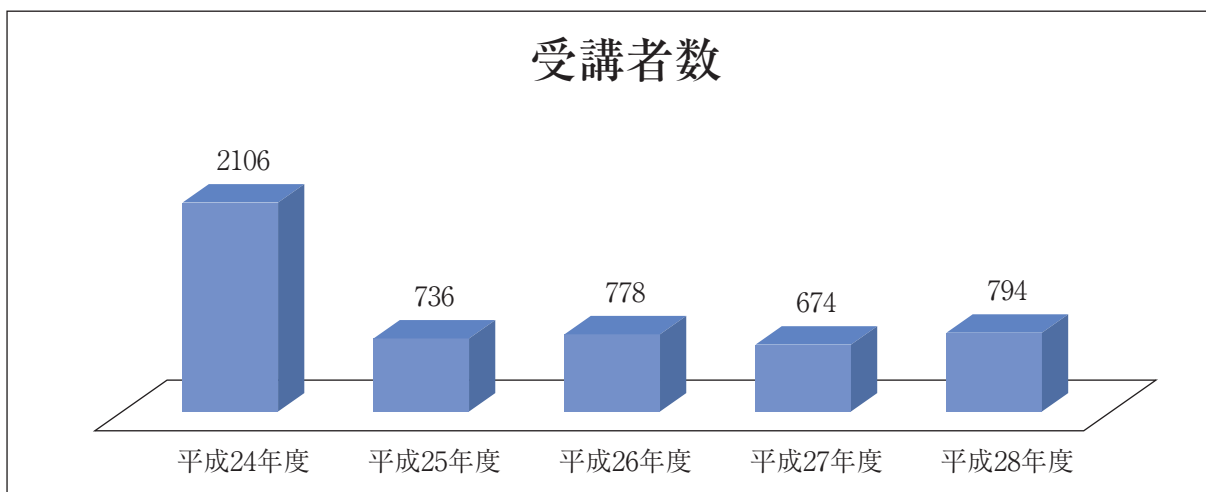


図2 過去5年間の公開講座の受講者数

## 2) 公開授業

公開授業は、正規の授業を開放して学生と共に専門的な教育内容を体系的に学ぶ場を提供するものであり、各科目担当教員の意向調査および一部学部からの推薦にもとづき実施している。近年、新聞折り込み広告での取り組みなどが功を奏し多くの方の受講が行われている一方、継続的に公開授業の開設に協力していただいたベテラン教員の定年退職等により開設科目数の減少が進んでいる。今後は、若手教員への働きかけなどを通して、公開授業開設科目数の回復に取り組む必要がある。また、個別の授業をバラバラに受講するだけでなく、公開授業の受講がまとまった内容の習得や社会活動につながることなど、より積極的な効果を生み出すよう工夫を行っていきたい。

### ○公開授業に関する過去5年間の開設科目数および受講者数の変化

平成24年度から28年度までの公開授業開設科目数及び受講者数を示したものが図3図4である。

開設科目数は、平成25年度の116をピークに減少傾向である。退職教員やベテラン教員に比べ、開設率の低い中堅・若手教員に公開授業の意義を感じていただき開設科目数を増加させる取り組みを継続していきたい。

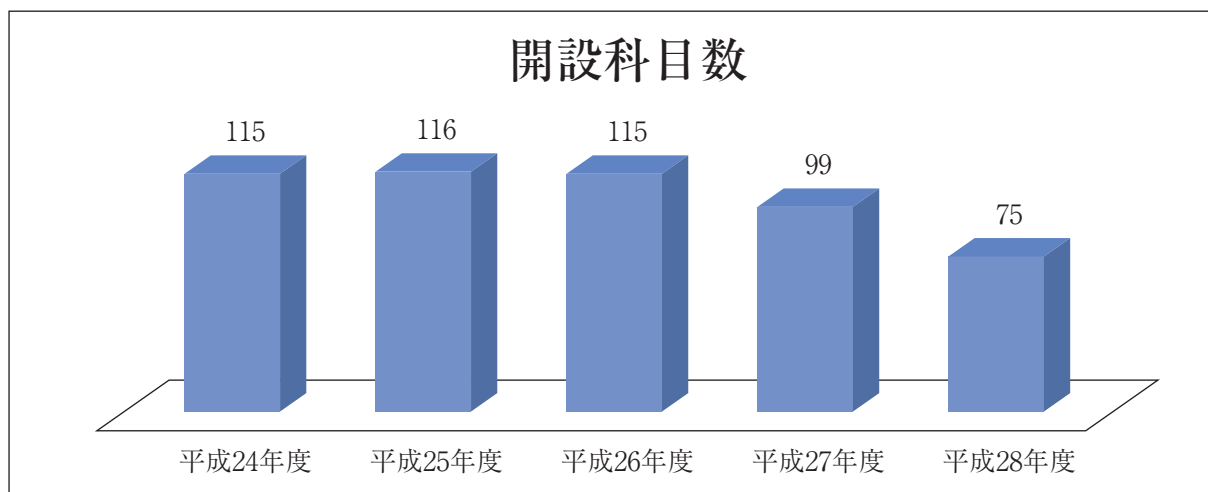


図3 公開授業の開設科目数

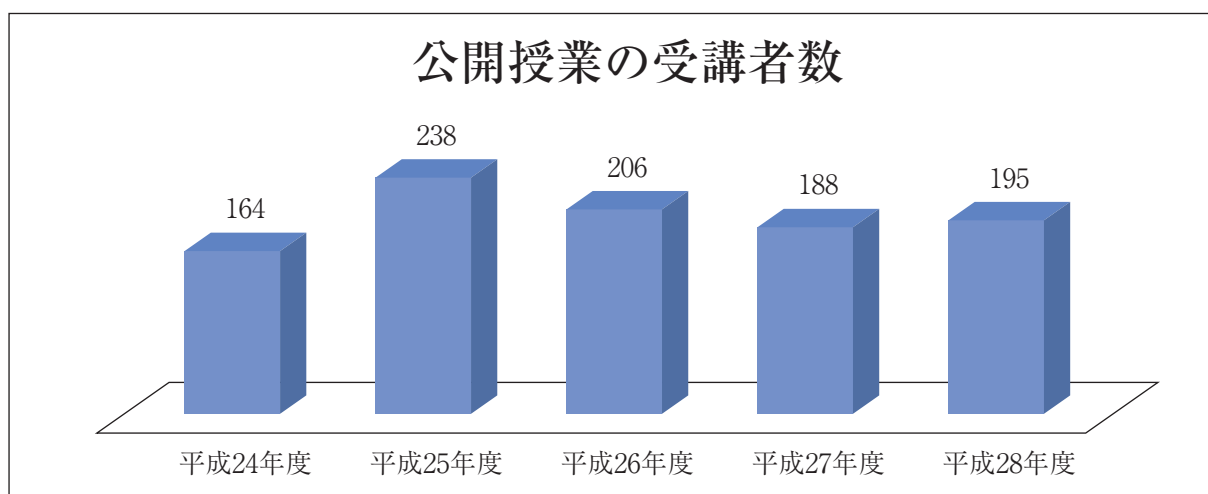


図4 公開授業の受講者数

次頁に平成28年度の大分大学公開授業開設科目の一覧を掲載する。前期36科目、後期41科目が開設されており、27年度から24.2%の減少となってしまった。

科目の区分としては、教養教育科目が33科目(44.0%)、学部専門科目が40科目(53.3%)、大学院科目が2科目(2.7%)となっており、当初教養教育科目に限定して開設していた公開授業で現在ではむしろ学部専門科目の占める割合の方が高くなっている。

受講者の分布としては、少人数が幅広い科目に分散して受講するというのが近年の全体傾向であるが、臨床心理学や応用英語など継続して人気の高い科目もある。

平成28年度公開授業

前期

	科目名	開講区分	受講者数
1	無機化学Ⅰ	専門	0
2	生命観の変遷	教養	5
3	現代天文学と生命	教養	5
4	西洋美術史	専門	2
5	国語(小)	専門	0
6	身近な物理学	教養	1
7	電気化学	専門	1
8	英語Ⅰ	教養	3
9	体育学概論	専門	0
10	英語Ⅰ	教養	0
11	哲学概論Ⅱ	専門	4
12	臨床心理学	専門	9
13	スポーツと生活	教養	5
14	人間・労働と技術の現代史	教養	5
15	コミュニケーション入門Ⅰ	教養	4
16	衣生活論	専門	2
17	国際関係論Ⅰ	専門	5
18	老年看護学概論	専門	7
19	小学校外国語活動指導法	専門	2
20	異文化間コミュニケーション論Ⅰ	専門	3
21	応用英語E	教養	9
22	EUの政治経済	教養	1
23	保険論Ⅰ	専門	2
24	音響工学	専門	0
25	社会政策論Ⅰ	専門	5
26	応用中国語	教養	1
27	創造的思考方	教養	0
28	英語ゼミナールB	教養	4
29	英語ゼミナールE:英語運用力養成訓練Ⅰ	教養	7
30	生涯学習論入門	教養	3
31	基礎経営論Ⅰ	専門	1
32	政治経済学Ⅰ	専門	1
33	都市経営論Ⅰ	専門	0
34	国語(小)	専門	0
35	システムLSⅠ設計特別講義	大学院	1
36	国際健康コンサルジュ養成講座	教養	11

後期

	科目名	開講区分	受講者数
1	基礎中国語Ⅱ	教養	1
2	現代中国社会論	専門	5
3	国語科学習材研究	専門	1
4	哲学概論Ⅰ	専門	3
5	基礎中国語Ⅱ	教養	0
6	企業取引法Ⅱ	専門	1
7	カラダの見方・考え方	教養	5
8	人間関係論	専門	2
9	田舎暮らしの人類学	教養	2
10	英語Ⅰ	教養	0
11	臨床心理学演習	専門	9
12	市民参加と現代社会	教養	3
13	福祉テクノロジー入門	教養	0
14	前近代日本の国家と社会	教養	6
15	事業創成入門	教養	0
16	コミュニケーション入門Ⅱ	教養	4
17	インストラクショナルデザイン入門	教養	1
18	国際関係論Ⅱ	専門	3
19	生活行動論Ⅱ	専門	0
20	日本語学Ⅰ	教養	1
21	異文化間コミュニケーション論Ⅱ	専門	2
22	応用英語E	教養	4
23	グローバル化と政治経済	教養	2
24	株式会社論Ⅰ	専門	1
25	保険論Ⅱ	専門	0
26	英語科授業論	専門	1
27	MOT特論Ⅲ(知的財産)	大学院	0
28	ダンスⅠ	専門	0
29	ダンスⅡ	専門	0
30	社会政策論Ⅱ	専門	3
31	英語ゼミナールF:英語運用力養成訓練Ⅱ	教養	9
32	応用中国語Ⅱ	教養	3
33	大学開放論 —社会人の学びと大学生の学び—	教養	1
34	表現形式総合論Ⅱ	専門	0
35	政治経済学Ⅱ	専門	5
36	基礎経営論Ⅱ	専門	1
37	英語Ⅰ	教養	2
38	都市経営論Ⅱ	専門	0
39	日本東洋美術史	専門	1
40	数値解析	専門	0
41	知的財産入門	教養	4

## (2) 大学教育と生涯学習の接続・連携

### 1) 生涯学習・社会教育に関する授業の実施（教養教育）

#### 【生涯学習論入門】

生涯学習に関する基本的理解を得、大学の授業なども含めて自分の学習を経営し、展開するための視点を獲得することを目的として、生涯学習に関わる諸側面を講義した。25年度より大分県子ども子育て支援課との連携により実施した「ライフデザイン講座」は担当教員単独の取り組みとしてワークショップを継続し、県が作成したパンフレットも活用した。

#### 【学習ボランティア入門】

きつちよむフォーラムで学生から要望があったボランティア活動を単位化する授業として、ボランティア活動を中心とした授業を平成 23 年度から継続している。近年は、大分県中小企業家同友会の協力を得、加盟企業でのインターンシップを行わせていただいている。

①講義：4 時限（授業趣旨，学習ボランティアの意義・心得等）

②活動：9 時限（15 時間以上）

※実際に地域へ出かけて子どもや高齢者等に関わるボランティア活動を行う。

③振り返り：2 時限（ボランティア報告会とまとめ）

#### 【プロジェクト型学習入門 1・2～インターンシップセミナーB～】

大学で学ぶ力を付けさせるため、また社会人として必要な力の基礎を修得させるため、プロジェクトを自ら企画し、実行することで、企画力，提案力，コミュニケーションスキルなどの向上を図っている。28年度は大分大学生協との連携により、学生生活における困りを解決あるいは学生生活をもっと魅力的なものにする取り組みを考え、実行している。

#### 【大学開放論—社会人の学びと大学生の学び—】

全国国立大学生涯学習系センター協議会の取り組みの一環として刊行した『大学開放論—センター・オブ・コミュニティ（COC）としての大学—』をテキストとし、大学開放について論じるとともに、その中で自分がどのように大学を利用して学ぶかについてグループワークなどを通して考える授業とした。「大分大学活用方法の提案」，「大学在学中の目的目標と取り組み」などをグループで検討し，交流した。

#### 【中小企業の魅力の発見と発信】

大分県中小企業家同友会の協力を得、県内の中小企業の魅力的な職場でのインターンシップに加え、魅力を発信するポスター作成のための取材も行うことで、就業に向けた意識への働きかけや県内で働こうという意欲の喚起を意図した授業である。平成 28 年度は、光建エンジニアリング，レンブラントホテル大分，ひまわり畑，ビイング，アークホームの 5 社にご協力いただいた。

### 2) 本学及び学部の授業・講習との接続

#### 【大分の水Ⅰ】 【大分の水Ⅱ】

これらの科目は、平成 21 年度選定大学教育・学生支援推進事業【テーマ A】大学教育推進プログラム「水辺の地域体験活動による初年次教育の推進—学生の社会性向上を図る総合

的教養教育の実践一」（以下水辺 GP と略記）の取組として開始された授業科目であり、本学教員グループを事務局とする NPO 法人 大分水フォーラムの事務局員である岡田が関与している。具体的には、【大分水Ⅰ】および【大分水Ⅱ】では、週末に行われる地域体験活動プログラムのコーディネートや運営（国東市来浦地区、竹田市岡本地区、九重町ゼンイレブン記念財団九重ふるさと自然学校など）を行い、あわせて環境学習や川端（かばた）に代表される自然共生型のライフスタイルについて講義をおこなった。教室では意欲が高くない学生であっても、現地で地元の人の指導を受ける際には意欲的な姿勢を見せる傾向があり、想定以上の効果を得ることができた。

#### 【教員免許状更新講習】

岡田が選択科目「学校と家庭，地域の協働方策—子育てを手がかりに—」（4 コマを担当）を担当した。学校と家庭，地域が協働するための方策について、主として子育てに関わるという部分に焦点化して講義した。

### 3) 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）

文部科学省委託事業「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC+事業）の実施にあたり、生涯学習部門が関係する教育プログラム開発事業の取組をおこなった。専任教員が県内就職率向上部会の委員を務め、高度化②科目に位置づけられている「高度化学習ボランティア実践」の開発に取り組んだ。

## （3）情報収集提供・学習相談活動

### 1) 情報収集・提供

○年度当初に年間計画を掲載すると共に、年間を通して各講座等の詳細情報とその実施報告の日常的な更新をした。

#### ＝大分大学高等教育開発センター生涯学習関連ホームページの構成＝

概	要：①生涯学習支援の概要 ②年度事業計画 ③研究資料 ④生涯学習情報
県民の皆様へ：	①公開講座の紹介 ②公開授業の紹介 ③各種学習機会の紹介
学生の方々へ：	①ボランティア情報 ②学習ボランティア申し込み ③学習支援
お問い合わせ	

○紙媒体の情報提供については、公開講座・公開授業パンフレットを前期、後期別に 2 回作成して、大分市を中心に配布したり、センターが主催する各種講座については別途チラシを作成して事業ごとに募集したりするなどして広く広報をおこなった。また、平成 23 年度からの取組としては、公開授業の広報を新聞チラシに挿入しての配布を行うなどして、幅広く広報を行って情報の広がりを図った。

### 2) 学習相談

社会人の学習活動へのアドバイスや学生の授業や卒業論文，就職活動等の生涯学習に関わる内容について、資料を提供するなどして相談活動をおこなった。

## (4) 学内のネットワーク化

### 1) 部門会議の実施

年度当初の年間実施計画の協議、後期における各種取組計画等について、部門長から提案して審議するとともに、個別の案件については、関係する部門委員に相談するなどして生涯学習関連の取組の充実を図った。

### 2) 生涯学習支援に関する教員のネットワーク化

公開講座の実施については、各学部での計画・実施や教員が自主的に実施するなどのシステムがある。さらに、大分水フォーラムを通じた連携やセンターが各課題に対応する講座、市町村と連携・協同で実施する講座・調査研究においても一定のネットワークが出来ている。そうした中、平成25年度から「とよのまなびコンソーシアムおおいた『連携講座』」の「豊の国学」の実施にあたって、大分大学では各学部から1名の講師を選任するシステムができ、学部から選任された教員が「中央講座」と「分野別講座」の専門分野での講義をおこなった。

## (5) 地域生涯学習支援システムの整備

本センターの役割として、県民の生涯学習を支援するシステムづくりや、その中で重要な役割を果たす社会教育関係職員、指導者・ボランティアなどの力量の向上に取り組むことで、間接的に地域住民の学習を支援することが重要であることから、そうした連携のシステムを通しての地域貢献を行うために次の取組をおこなった。

### 1) 生涯学習支援ネットワーク化の取組

#### ①県及び市町村教育委員会とのネットワークづくり

県教育庁社会教育課や県立社会教育総合センターと、個別の事業に関する打ち合わせ会を実施するなどして、連携を深める取組をおこなった。さらに、本センターが実施する各種取組について市町村事業と協同で実施するなどして市町村との日常的な連携を取りながらネットワーク化を図った。

#### ②県内高等教育機関のネットワーク化

「とよのまなびコンソーシアムおおいた」の生涯学習関係事業（連携講座）において分科会を行う中で、各学校の現状を把握するとともに担当者との意思疎通を図ることができた。さらに、「豊の国学」としての体系的な講座を提供するシステムを形成して取り組んでいる。

### 2) 支援団体等の活動

#### ①NPO 法人大分県「協育」アドバイザーネットの活動

事業1. 指導者養成事業（連携事業）

##### ○「協育」アドバイザー養成講座

※大分大学高等教育開発センターが実施する研修事業への企画・運営へ参画



## 事業 2. 「協育」プログラム開発事業

○研修会・協働事業等によるネットワークづくり推進プログラムの開発

- ・大分大学学習ボランティア「フォーバル」の研修事業
- ・人と本を結ぶ読書支援ネットワーク「ゆい（結い）の育成

<読書講演会「子どもと本を結ぶあなたへ…～私と読書『誕生の瞬間を共にして…』～」>

日 時：平成 28 年 11 月 13 日（日）10：00～12：00

会 場：大分大学医学部挟間キャンパス 看護棟 2 階 212 教室

主 催：大分大学高等教育開発センター

NPO 法人大分県『協育』アドバイザーネット

人と本を結ぶ読書支援プロジェクト「ゆい（結い）」

講 師：渡邊しおり氏 堀永産婦人科医院 師長

標記テーマで読書講演会を開催した。堀永産婦人科医院師長の渡邊しおり氏を講師として子どもと本を結ぶ取り組みに向けての講演をいただいた。「協育」アドバイザーネットと学生学習ボランティアサークル「ゆい」のメンバーが会の運営にあたった。

○第 9 回 地域発「活力・発展・安心」デザイン実践交流会への企画・運営へ参画

テーマ：「地域創生のための取組とその仕組みを語ろう～子どもから大人まで，教育から福祉まで～」

主 催：東国東地域デザイン会議，大分大学高等教育開発センター，

NPO 法人大分県「協育」アドバイザーネット

協 力：大分県社会教育主事有資格者の会

会 場：「梅園の里」 〒873-0355 国東市安岐町富清 2244 TEL/0978-64-6300

期 日：平成 29 年 2 月 25 日（土）～2 月 26 日（日）

国東市安岐町の梅園の里を会場に，今年も東国東地域デザイン会議，NPO 法人大分県「協育」アドバイザーネットとの共催により，実践交流会を開催した。4 件の実践事例発表を行い，それを受けた総括討議を行った。また，終了後情報交換会で情報交流を進めた。

### ②大分県『協育』ネットワーク協議会

○第 9 回 地域発「活力・発展・安心」デザイン実践交流会への企画・運営へ参画

○大学教養教育授業への支援活動

○NPO 法人大分県「協育」アドバイザーネットの活動への支援活動

## （6）生涯学習推進と社会的活動の取組

県及び市町村教育委員会社会教育行政等と連携して，生涯学習・社会教育に関する調査研究の成果を普及・還元するとともに，本センターが持つ各種情報等を生かした生涯学習の推進とともに，センターとしての社会的活動による地域貢献の取組をおこなった。

### 1) 県・市町村教育委員会生涯学習・社会教育行政との連携

＝委員等への就任＝

【大分県関係】

- 大分県社会教育委員（岡田）
- 大分県協働推進会議委員長（岡田）
- 大分県青少年健全育成審議会副委員長（岡田）
- 大分県子ども子育て応援県民会議副会長（岡田）
- おおいた共創応援基金理事（岡田）
- 大分県立大分豊府高校思考力・判断力・表現力育成研究委員（岡田）
- 家庭教育支援プログラム検討委員会委員長（岡田）

【県内市町村関係】

- 大分市地区公民館長選考委員会委員（岡田）
- 大分市南部公民館運営審議会委員（岡田）
- 由布市庄内公民館プロポーザル選定委員会委員（岡田）

＝生涯学習関係者研修事業＝

【大分県関係】

- 大分豊府高等学校職業人講座講師
- 大分県家庭教育支援員研修講師（岡田）

【市町村関係】

- 大分市大分南部公民館「おやじの夜なべ談義」コーディネーター（岡田）
- 由布市公民館づくり市民塾（岡田・安部）
- 中津市三光公民館研修（岡田・安部）
- 由布市社会教育大会講師（岡田）

2) 国，都道府県，団体，機関等との連携・支援

【国・他県生涯学習関係者研修事業支援（主なもの）】

- 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター社会教育主事専門講座 A（岡田）
- 広島大学社会教育主事講習「大学と地域社会」，「高等教育と生涯学習」担当（岡田）
- 鳥根県つなぐ・つながる実践発表交流会講師（岡田）
- 福岡県アンビシャス広場運営スタッフ連絡会講師（岡田）
- 北海道地方創生コンファレンス講師（岡田）
- タイ国チュラロンコン大学訪問受け入れ（岡田）

【委員等への就任】

- 全国国立大学生涯学習系センター協議会理事（岡田）
- とよのまなびコンソーシアムおおいた生涯学習分科会長（岡田）
- 中国・四国・九州生涯学習実践交流会大分県実行委員（岡田）
- 地域発「『活力・発展・安心』デザイン実践交流会」委員（岡田）
- おおいた水フォーラム事務局（岡田）
- NPO 協働モデル事業審査委員会委員（岡田）
- 大分県高等学校 PTA 連合会特別委員会委員（岡田）

# Ⅲ 付 録

## 1. センター関係諸規則

### (1) 大分大学高等教育開発センター規程

平成20年4月1日制定

#### (趣旨)

第1条 この規程は、大分大学学則（平成16年規則第8号）第7条第2項の規定に基づき、大分大学高等教育開発センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

#### (定義)

第2条 この規程において「部局」とは、国立大学法人大分大学部局を定める規程（平成16年規程第14号）第2条第3項第1号に規定する部局のうち、事務局を除く部局をいう。

2 この規程において「部局長」とは、前項に規定する部局を掌理する者をいう。

#### (目的)

第3条 センターは、学内外の関係機関との連携の下に、高等教育および生涯学習に関する調査・研究及び教育事業を積極的に推進し、もっと大分大学（以下「本学」という。）における教育及び地域社会の発展に寄与することを目的とする。

#### (業務)

第4条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 新規授業・カリキュラム開発に係る業務
- (2) メディア・IT活用関連に係る業務
- (3) FD・授業評価関連に係る業務
- (4) 大学開放推進関連に係る業務
- (5) 生涯学習支援システム関連に係る業務
- (6) その他センターの目的を達成するために必要な業務

#### (部門)

第5条 センターに次の各号に掲げる部門を置く。

- (1) 新規授業・カリキュラム開発部門
- (2) メディア・IT活用部門
- (3) FD・授業評価部門
- (4) 大学開放推進部門
- (5) 生涯学習支援システム部門

#### (職員)

第6条 センターに次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) センター次長
- (3) 専任教員
- (4) 部門長
- (5) センター員

(センター長)

第7条 センター長は、センターの業務を掌理する。

- 2 センター長は、本学の教授のうちから、大分大学学内共同教育研究施設等管理委員会（以下「管理委員会」という。）の推薦に基づき、学長が任命する。
- 3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター次長)

第8条 センター次長は、センター長を補佐し、センター長に事故があるときはその職務を代行する。

- 2 センター次長は、本学の教員のうちから、管理委員会の推薦に基づき、学長が任命する。
- 3 センター次長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、センター次長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第9条 専任教員は、教育研究に従事するとともに、センターの業務を行う。

- 2 専任教員の選考は、管理委員会の議に基づき、学長が行う。

(部門長)

第10条 部門長は、センター長の指示を受け、第5条各号に規定する各部門をそれぞれ統括する。

- 2 部門長は、本学の教員のうちから、センター長の推薦に基づき、学長が任命する。
- 3 部門長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、部門長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター員)

第11条 センター員は、担当部門の研究開発、支援等を行う。

- 2 センター員は、本学の教員のうちから、部局長の推薦に基づき、学長が任命する。
- 3 センター員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、センター員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営委員会)

第12条 センターの円滑な運営を図るため、大分大学高等教育開発センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

- 2 運営委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(専門委員会)

第13条 運営委員会に、業務に係る専門的事項について調査及び実施するため、専門委員会を置くことができる。

- 2 専門委員会については、別に定める。

(事務)

第14条 センターに関する事務は、学生支援部教育支援課において処理する。

(雑則)

第15条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は別に定める。

附 則（平成20年規程第8号）

- 1 この規程は平成20年4月1日から施行する。
- 2 大分大学生涯学習教育研究センター規程（平成16年規程第134号）及び大分大学高等教育開発センター規程（平成17年規程第12号）は廃止する。

## (2) 大分大学高等教育開発センター運営委員会細則

平成20年4月1日制定

### (趣旨)

第1条 この細則は、大分大学高等教育開発センター規程（平成20年規程8号）第11条第2項の規定に基づき、大分大学高等教育開発センター運営委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

### (審議事項)

第2条 委員会は、大分大学高等教育開発センター（以下「センター」という。）の円滑な運営を図るため、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの運営に関する事項
- (2) センターの事業計画に関する事項
- (3) 部門間の連絡調整に関する事項
- (4) その他センターに関する必要な事項

### (組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
  - (2) センター次長
  - (3) 専任教員
  - (4) 部門長
  - (5) 各学部から選出された教員 各1人
  - (6) 大分大学学術情報拠点運営会議から選出された者 1人
  - (7) 大分大学産学官連携推進機構運営会議から選出された者 1人
  - (8) 研究・社会連携部長
  - (9) 学生支援部長
  - (10) その他センター長が必要と認めた者
- 2 前項第5号から第7号まで及び第10号の委員は、学長が任命する。
- 3 第1項第5号から第7号まで及び第10号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

### (委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する者がその職務を代行する。

### (会議)

第5条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 委員会の事務は、学生支援部教育支援課において処理する。

(雑則)

第8条 この細則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則 (平成20年細則第3号)

- 1 この細則は平成20年4月1日から施行する。
- 2 大分大学生涯学習教育研究センター運営委員会規程(平成16年規程第135号)、大分大学高等教育開発センター運営委員会規程(平成17年規程第13号)及び大分大学公開講座専門委員会内規(平成16年4月1日制定)は廃止する。

附 則 (平成23年学内共同教育研究施設等細則第2号)

この細則は、平成23年4月1日から施行する。



### (3) 大分大学高等教育開発センター紀要刊行規程

平成20年10月10日制定

#### (趣旨)

- 1 この規定は、大分大学生涯学習教育研究センター（以下「センター」という）紀要（以下「紀要」という）の編集および刊行等に関して、必要な事項を定めるものとする。

#### (紀要の内容)

- 2 紀要には、高等教育または生涯学習についての未発表の学術論文、研究ノート、報告、翻訳、資料等（実践報告を含む）を掲載するものとする。

#### (投稿資格)

- 3 投稿者は、投稿日において次の各号の一に該当していること。ただし、共著の場合には、筆頭著者が投稿資格を満たしていればよい。
  - (1) 本学教員
  - (2) 本センター客員研究員
  - (3) 本センターが依頼した人
  - (4) 本センター運営委員会が認めた人

#### (執筆要領)

- 4 投稿原稿に関する執筆要領については、別に定める。

#### (刊行)

- 5 紀要は原則として年1回発行するものとする。

#### (刊行費)

- 6 刊行費は、センター共通費で負担するものとする。ただし、次の各号については、執筆者の個人負担とする。
  - (1) 論文の刷り上がりページ数が20ページを超える場合
  - (2) 別刷が50部を超える場合

#### 附 則

この規定は、平成20年10月10日から施行する。

## (4) 大分大学高等教育開発センター紀要執筆要領

### 1) 投稿枚数

投稿原稿は、単独執筆または共同研究に関わらず、原則として一編につき刷り上がりで20ページ以内とする。刷り上がりで30ページ以内であれば受理するが、その場合には刊行費用について執筆者が応分の負担をするものとする。

投稿枚数は、題目、要旨、キーワード、図表、注、参考文献等を所定の枚数の中に含めて算定することとする。

### 2) 投稿申込および原稿提出の期限

投稿申込の期限は毎年12月28日とし、原稿提出の期限は毎年1月末日とする。なお、当該日が休日の場合、次の勤務日を期限とする。

### 3) 審査および掲載の可否

投稿された原稿は、センター運営委員会で掲載の可否について判断された上で紀要に掲載されるものとする。場合に応じて、加筆、修正、削除を求めることがある。

### 4) 原稿の提出

原則として、原稿はワープロソフトを使用して作成し、プリントアウトしたもの（1部）とファイルを保存したメディアを提出する。

①プリントアウトは以下の書式で作成する。

- ・用紙はA4縦とする。
- ・ページレイアウトは横書きとし、上30mm、左右20mm、下20mmの余白をとる。
- ・1ページあたり、40字×40行とする。
- ・カラー印刷を希望する場合、その旨を明記する。

### 5) 参考文献

参考文献は原稿末尾に掲載する。雑誌の場合、著者・文献名・巻・号・出版年月・ページを、単行書の場合には、著者・書籍名・出版社・出版年・ページを記入する。

### 6) 校正

校正は一校を原則とし、必要最低限の訂正、修正に留めるものとする。

### 7) 別刷

別刷は原則として50部とする。50部を超える別刷を希望する場合には、執筆者が刊行費用について応分の負担をするものとする。

## 2. 平成28年度高等教育開発センター 委員会等名簿

### 高等教育開発センター運営委員会

委員長	西野 浩明	高等教育開発センター長
委員	岡田 正彦	高等教育開発センター次長
委員	牧野 治敏	高等教育開発センター
委員	鈴木 雄清	高等教育開発センター
委員	安部 耕作	高等教育開発センター
(平成28年8月から12月)		
委員	財津 庸子	教育学部
委員	西村 善博	経済学部
委員	中川 幹子	医学部
委員	中島 誠	工学部
委員	徳丸 治	福祉健康科学部
委員	吉田 和幸	学術情報拠点運営会議
委員	秋田 昌憲	産学官連携推進機構運営会議
委員	安部 武司	研究・社会連携部長
委員	中村 浩之	学生支援部長

### 新規授業・カリキュラム開発部門

部門長	西野 浩明	高等教育開発センター長 (工学部)
-----	-------	-------------------

### メディア・IT活用部門

部門長	鈴木 雄清	高等教育開発センター
センター員	牧野 治敏	高等教育開発センター
センター員	鄭 娥敬	教育学部
センター員	藤井 弘也	教育学部
センター員	相浦 洋志	経済学部
センター員	末弘 理恵	医学部
センター員	厨川 明	工学部
センター員	阿南 雅也	福祉健康科学部
センター員	吉崎 弘一	学術情報拠点

### FD・授業評価部門

部門長	牧野 治敏	高等教育開発センター
センター員	鈴木 雄清	高等教育開発センター
センター員	島田 和典	教育学部
センター員	大井 尚司	経済学部 (平成28年8月15日まで)
センター員	小野慎一郎	経済学部 (平成28年8月16日から)
センター員	市原 宏一	経済学部
センター員	中川 幹子	医学部
センター員	栗原 央流	工学部
センター員	紀 瑞成	福祉健康科学部

## 大学開放推進部門及び生涯学習支援システム部門

部門長	岡田 正彦	高等教育開発センター次長（大学開放推進部門長）
部門長	安部 耕作	高等教育開発センター（生涯学習支援システム部門長） （平成28年8月から12月）
センター員	小山 拓志	教育学部
センター員	久保田 亮	経済学部
センター員	藤木 稔	医学部
センター員	鈴木 義弘	工学部
センター員	松本 由美	福祉健康科学部



平成28年度

大分大学高等教育開発センター報告書

発行 平成30年3月  
編集 大分大学高等教育開発センター  
〒870-1192 大分市大字旦野原700番地  
Tel (097) 554-8509  
Fax (097) 554-7445  
<http://www.he.oita-u.ac.jp/>